

鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.22

2024 年度

鹿児島大学総合研究博物館

The Kagoshima University Museum

鹿児島大学総合研究博物館年報
Annual Report of the Kagoshima University Museum

No.22

2024 年度



鹿児島大学総合研究博物館
The Kagoshima University Museum

中表紙

いちき串木野市の観音ヶ池にて水抜き外来魚駆除をした際に採集されたオオクチバス

年報 No.22 目次

1	総合研究博物館の組織－ 2024 年度－	橋本達也	1
	館長 研究部 運営委員 兼務教員 学外協力研究者 専門部会		
2	2024 年度の企画事業		
	1. 市民講座		
	第 42 回市民講座「鹿児島外来魚」	本村浩之	3
	第 43 回市民講座「鹿児島植物研究会 講演会」	田金秀一郎	3
	第 44 回市民講座「福昌寺キリシタン墓地の調査成果と潜伏キリシタン史」	橋本	3
	2. 公開講座		
	第 29 回自然体験ツアー	田金	4
	第 6 回バックヤードツアー「植物標本庫」	田金	4
	3. 展示	本村	5
	第 22 回特別展「鹿児島外来魚 50」		
	5. その他の活動		
	(1) 鹿大祭くじ	橋本	9
3	常設展示室	上村 文	10
	1. 入館者数 2. 利用・活用状況 3. 室内環境		
	4. 常設展示室アンケート		
	5. 常設展示室 展示品目録－ 2024 年度－（2023 年度からの変更点）		
	6. 常設展示室の課題		
4	教育活動		
	博物館実習・博物館学関連講義	橋本・本村・田金	14
5	出版・広報	橋本	15
6	ボランティア活動	本村・田金	16
7	国際交流	本村・田金	17
8	標本管理活動		
	1. 植物標本室	田金	18
	2. 動物標本の利用状況	本村	19
	3. その他の標本等の管理・利用	橋本	21
9	2024 年度 専任教員の活動業績	各教員	23
10	2024 年度 ポスター	各教員	33

1 総合研究博物館の組織－ 2024 年度－

館 長 本村 浩之

研究部

資料研究系	橋本 達也	教授	考古学
分析研究系	本村 浩之	教授	魚類分類学
	田金秀一郎	准教授	植物分類学
	大西 佳子	助教	地球人間圏科学
特任研究員	山本 武能		
事務補佐員	森田 公代		
事務補佐員（常設展示室）	上村 文		
技術補佐員	大西 聡子		
技能補佐員	西原 茉莉		
事 務 局	研究推進部研究協力課研究支援係		

運営委員（総合研究博物館専任教員を除く）

法文学部	渡辺 芳郎	教授
教育学部	坂田 桂一	准教授
大学院理工学研究科（理学系）	新永 浩子	准教授
医学部	沖 利通	教授
大学病院	比地岡 浩志	講師
大学院理工学研究科（工学系）	定松 直	准教授
農学部	中村 正幸	准教授
水産学部	中村 啓彦	教授
共同獣医学部	小尾 岳士	准教授
医歯学総合研究科	山中 淳之	教授

兼務教員（敬称略）

渡辺 芳郎	：法文教育学域法文系（法文学部）（考古学）
小林 善仁	：法文教育学域法文系（法文学部）（歴史地理学）
日隈 正守	：法文教育学域教育学系（教育学部）（日本中世史）
松井 智彰	：法文教育学域教育学系（教育学部）（鉱物学）
川西 基博	：法文教育学域教育学系（教育学部）（植物生態学）
栗和田 隆	：法文教育学域教育学系（教育学部）（動物生態学）
河野 元治	：理工学域理学系（理学部）（地球科学）
山本 雅史	：農水産獣医学域農学系（農学部）（果樹園芸学）
一谷 勝之	：農水産獣医学域農学系（農学部）（植物育種学）
鶴川 信	：農水産獣医学域農学系（農学部）（森林生態学）
坂卷 祥孝	：農水産獣医学域農学系（農学部）（害虫学（昆虫学））
森脇 潤	：農水産獣医学域農学系（農学部）（動物生理学、動物生産科学、獣医学）
平 瑞樹	：農水産獣医学域農学系（農学部）（地域環境システム学分野）
大富 潤	：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（水産生物学）

佐久間 美明：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（漁業管理学）
寺田 竜太：農水産獣医学域水産学系（連合大学院農学研究科）（藻類学・水産植物学）
山本 智子：農水産獣医学域水産学系（水産学部）（海洋生態学）
河合 溪：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（海洋生物学）
高宮 広士：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（先史人類学）
大塚 靖：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（衛生動物学）
山本 宗立：総合科学域総合研究学系（国際島嶼研）（熱帯農学・民族植物学）
藤田 志歩：総合科学域総合教育学系（共通教育センター）（霊長類学・生態学・行動学）

学外協力研究者（敬称略）

上野 浩子：公益財団法人かごしま環境未来財団嘱託員（魚類寄生虫学）
大木 公彦：鹿児島大学名誉教授（第四紀層位学・微古生物学（底生有孔虫）、海洋
質学）
鹿野 和彦：（地質学）
木下 紀正：鹿児島大学名誉教授（環境物理学、素粒子・原子核物理学）
坂元 隼雄：鹿児島大学名誉教授（地球化学、分析化学、環境化学）
櫻井 真：鹿児島純心女子短期大学生活学科教授（動物形態学、鹿児島県内野生生物
の生態・分布調査、野生動物保存生態学）
土田 充義：鹿児島大学名誉教授（日本建築史）
中村 潤平：公益財団法人鹿児島水族館公社職員ハタ科魚類の分類および生物地理学的
研究、鹿児島県の魚類相
福田 晴夫：鹿児島昆虫同好会（生物学、昆虫生態学 他）
福元しげ子：（アリ類の分類学）
藤井 琢磨：日本大学生物資源科学部専任講師（動物分類、サンゴ礁生物多様性、進化
系統、生物地理）
星野 和夫：大分マリーナパレス水族館「うみたまご」飼育部企画グループリーダー
（魚類分類学）
丸野 勝敏：（マメ科ハギ属カヤツリグサ科スゲ属植物の分類）
山下 智：鹿児島大学名誉教授（魚類・両生類・ほ乳類の味覚神経情報の比較生理学）
山根 正氣：鹿児島大学名誉教授（有剣ハチ類・アリ類の分類学および生物地理学）
湯川 淳一：鹿児島大学名誉教授・九州大学名誉教授（タマバエ類の分類学的及び生態
学的研究）

専門部会

委員長 山本 智子（水産）
委員 鵜川 信（農） 栗和田 隆（教育）
寺田 竜太（連大） 大塚 靖（島嶼研）
総合研究博物館専任教員 4 名

2 2024 年度の企画事業

1. 市民講座

第 42 回市民講座「鹿児島県の外来魚」

2025 年 1 月 11 日、財団法人鹿児島県環境技術協会の米沢俊彦氏をお招きし、郡元キャンパスの連合農学研究科 3 階会議室にて、第 42 回市民講座を開催した。米沢氏には 1300 から 1410 まで鹿児島県の外来魚とその生態について解説して頂いた。参加者は 39 名で、学生から一般の方、水族館職員まで多くの魚好きが集まった。市民講座の後、中央図書館アトリウムに移動し、1420 から 1630 まで第 22 回特別展「鹿児島県の外来魚 50」のギャラリートークと質疑応答、歓談を行った。



米沢 俊彦 氏



第 42 回 市民講座



講座後の特別展見学

第 43 回市民講座「鹿児島植物研究会 講演会」(主催：鹿児島植物研究会、共催：鹿児島大学総合研究博物館、後援：国際島嶼教育研究センター)

2025 年 1 月 25 日 (土) 13:00 ~ 15:30 鹿児島大学郡元キャンパス連合農学研究科棟 3F 大会議室にて。Zoom オンライン同時配信。鹿児島植物研究会が 2004 年から続けている野外の植物観察会が 2024 年度に 200 回を迎えたことを記念し、講演会を企画。本研究会の会員でもある田金が当館を共催とする形で全面的にサポートして実施した。研究会会員でもある本学の教員 3 名および学生 2 名が鹿児島県の植物多様性解明に向けた取り組みや植物生態学研究の最前線について、講演を通じて話題提供を行った。会場参加は 36 名、オンラインでは 50 名の参加申し込みがあった。

講演では、研究会会員でもある本学の教員 3 名および学生 3 名が鹿児島県の植物多様性解明に向けた取り組みや植物生態学研究の最前線について、話題提供を行った。発表者と講演内容は以下の通りである。

田金秀一郎：まだまだ見つかる、鹿児島県の植物たち



第 43 回 市民講座



鈴木 英治 氏

田金秀一郎・鈴木英治：鹿児島県レッドデータブックの改訂に向けて
上村真寛：鹿児島県に自生するハナミョウガ属 2 種の花生態について
竹口輝：高隈演習林のビシャゴ岳における植生調査—微地形と標高勾配の影響についての考察—
二町侑樹：高隈山系に分布する 3 種のホトトギス属の受粉前の生殖的隔離
渡部俊太郎：鹿児島県で見られる植物の共存：近縁種の分布に着目した事例紹介

第 44 回市民講座「福昌寺キリシタン墓地の調査成果と潜伏キリシタン史」

2025 年 2 月 8 日(土) 13:30～15:30 鹿児島大学郡元キャンパス内 連合農学研究科棟 3F 大会議室において、市民講座を実施した。講師には別府大学文学部教授・田中裕介氏を招き、2023 年 3 月に田中氏を中心として総合研究博物館・橋本達也も協力参加した鹿児島市福昌寺キリシタン墓地の調査成果を紹介し、その上で潜伏キリシタンの歴史からその歴史的意義について解説を行った。

講座はまず橋本が「福昌寺跡キリシタン墓地とは—調査に至るまで—」として概要の紹介を行い、その後に田中氏が「昌寺キリシタン墓地の調査成果と潜伏キリシタン史」として講演を行った。

会場での参加および Microsoft Teams によるオンラインでも同時配信を実施した。会場参加は 20 名、オンライン申し込みは 78 名であった。講演後は、会場・オンライン両方から活発に質疑応答が行われた。



田中 裕介 氏



第 44 回 市民講座

2. 公開講座

第 29 回自然体験ツアー 「下山岳の植物」

2024 年 10 月 6 日(日) 10:00～14:00 鹿児島県南九州市下山岳(416 m)に生育する植物を解説するイベントとして開催した。20 代から 60 代の 9 名の参加者と共に、下山岳の周回コースを散策した。夏に襲来した台風に起因する倒木などで登山道が少し荒れていたが、全員で無事に登頂を果たし、山頂の景色を楽しんだ。現地では確認した 49 種の植物について解説を行った。

第 6 回 バックヤードツアー「植物標本庫」

2024 年 12 月 10 日(日) 10:00～12:00、13:00～15:00 総合研究博物館植物標本室にて。定員 7 名の 1 回開催を予定して募集をしたが、14 名の参加申し込みがあり、午前と午後の 2 部に分けて実施した。その後、参加者の都合によるキャンセルなどもあり、最終的な参加者は合計 10 名で



第 29 回 自然体験ツアー



第6回 バックヤードツアー

あった。植物標本の作成を体得してもらいつつ、博物館における植物標本資料の意義やその利用、および収蔵庫における管理等の解説を行った。

3. 展示

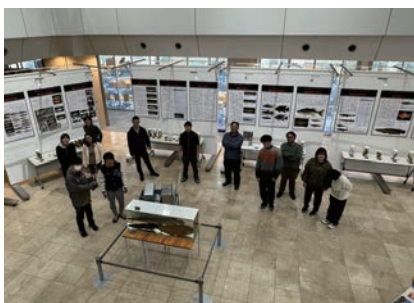
第22回特別展「鹿児島県の外来魚 50」

- ① 場所：鹿児島大学中央図書館ギャラリーアトリウム
日時：2025年1月8日～2月7日（10：00～17：00）
- ② 場所：かごしま環境未来館
日時：2025年2月8日～3月16日（9：30～21：00）

鹿児島県から記録されている外来種50種を、180点の液浸標本と24枚のA0解説パネルで紹介する展示である。

本展示では鹿児島県内の各地域・島嶼や水系ごとに記録されている外来魚とその地域における在来魚に与える影響や問題点を紹介するとともに、人とのかかわりに焦点をあてて種苗放流の是非についても踏み込んだ議論を展開した。また、人工交雑魚の養殖生簀からの逸脱による在来生態系への懸念も詳しく解説をおこなった。なお、本展示内容の詳細は『鹿児島大学総合研究博物館ニュースレター No.51』をご覧ください。

本特別展は鹿児島大学で開催後、かごしま環境未来館に展示場を移して計9週間開催をおこない、同館では開催期間中に7,550人の来館者があった。この展示は2025年にいおワールドかごしま水族館でも開催予定である。



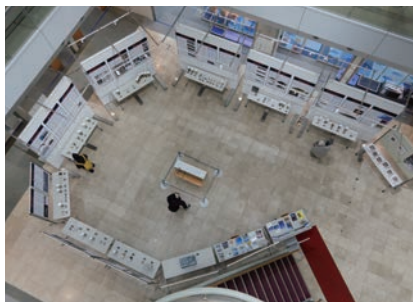
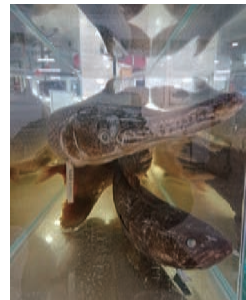
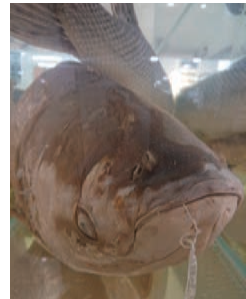
第22回 特別展（鹿児島大学会場）



第 22 回 特別展 (鹿児島大学会場)



第 22 回 特別展 （鹿児島大学会場）



第 22 回 特別展 (鹿児島大学会場)



第 22 回 特別展 （鹿児島大学会場）



第 22 回 特別展 （かごしま環境未来館会場）

4. その他の活動

（1）鹿大祭くじ

鹿大祭の際には常設展示室に多数の来館者が見込まれる。ただし、展示室は狭い閉鎖的な空間であるため、密になりすぎないように入館者数を調整する必要がある。そこで、常設展示室の外に受付を設け、同時入館者数を 20 名までとすることとし、時間調整と博物館のアピールをかねて、来館へのプレゼントのくじ引きを用意した。

あたりくじは昭和 50 年代頃の実験用ガラス器各種、ラベルがなく標本としての価値を損なった貝化石である。子どもにはハズレの際も化石はプレゼントした。来館者からは好評であった。なお本年度は当初、雨であったためテントの中で実施し、雨が止んで以降はテントを外しておこなった。



鹿大祭くじ

3 常設展示室

1. 入館者数

常設展示室 月別入館者数 2024 年度

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
総入館者数	67	138	63	83	59	77	168	350	106	71	28	114	1324
団体	0	71	4	26	0	53	82	15	21	0	0	47	319
一般	67	67	59	57	59	24	86	335	85	71	28	67	1005
開館日数	21	21	21	22	20	20	23	21	19	21	18	20	247

曜日別入館者数 2024 年度

	火	火	水	水	木	木	金	金	土	土	日	日	月	月	合計		
	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	団体	一般	総計
4 月	0	11	0	12	0	11	0	24	0	9	0	0	0	0	0	67	67
5 月	0	8	11	9	0	19	0	16	60	15	0	0	0	0	71	67	138
6 月	0	9	4	11	0	14	0	17	0	8	0	0	0	0	4	59	63
7 月	0	12	0	9	13	15	13	10	0	11	0	0	0	0	26	57	83
8 月	0	3	0	2	0	4	0	4	0	46	0	0	0	0	0	59	59
9 月	0	5	0	6	53	5	0	8	0	0	0	0	0	0	53	24	77
10 月	49	16	0	29	0	18	33	16	0	7	0	0	0	0	82	86	168
11 月	0	4	15	11	0	14	0	22	0	84	0	200	0	0	15	335	350
12 月	0	19	0	18	0	17	21	12	0	18	0	0	0	1	21	85	106
1 月	0	15	0	15	0	8	0	15	0	10	0	0	0	8	0	71	71
2 月	0	7	0	5	0	8	0	5	0	0	0	0	0	3	0	28	28
3 月	0	12	47	23	0	8	0	12	0	12	0	0	0	0	47	67	114
合計	49	121	77	150	66	141	67	161	60	220	0	200	0	12	319	1005	1324
	170		227		207		228		280		200		12		1324		

今年度の総入館者数は 1,324 名で、昨年度に比べ 159 名減少した。団体の入館者は 202 名増加し、学内・学外ともに団体利用の件数は増えている。一般の入館者数は 361 名の減少で、とくに年度前半の 4～9 月期の見学利用が以前と比べると大幅に減少してきている。

2. 利用・活用状況

今年度の団体利用は以下のとおりである。

大学関係

- ・講義利用（農学部・理科教材研究法Ⅱ 教育学部・地学概論Ⅱ）
- ・国際会議（ICCCM 2024 鹿児島大学工学部主催）
- ・国際シンポジウム（ISCI2025 鹿児島大学理工学研究科・インド国立カルナタカ工科大学共催）
- ・海外学術交流・表敬訪問（台湾国立宜蘭大学学長一行・アンダラス大学学長一行・華中農業大学・国立台湾師範大学）
- ・高校生大学訪問（熊本県立御船高校・福井県立武生東高校・熊本北高校）

学外

- ・修学旅行（東京・山脇学園）
- ・旅行会社ツアー（クラブツーリズム）

3. 室内環境

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
1階ケース温度(℃)	20.8	22.5	23.9	26.2	27.0	26.5	24.7	20.5	17.3	16.7	13.5	16.3	21.3
1階ケース湿度(%)	67.4	65.7	67.6	69.0	61.7	65.1	67.9	60.8	44.3	38.8	42.6	53.0	58.7
2階ケース温度(℃)	21.6	23.7	24.6	26.8	28.0	27.0	25.0	20.2	18.6	17.9	16.8	19.5	22.5
2階ケース湿度(%)	64.1	59.5	62.6	54.9	51.5	59.0	65.4	60.3	39.5	35.0	33.8	51.9	53.1

4. 常設展示室アンケート

アンケート集計結果

1) 年齢

小学生以下 11名 中学生 3名 高校生 7名 大学生・大学院生 29名
 上記以外の10代 1名 20歳代 7名 30歳代 9名 40歳代 7名
 50歳代 23名 60歳代 14名 70歳以上 6名 無回答 0名

2) 居住地

鹿児島市内 25名 鹿児島県内 11名 鹿児島県外 47名
 大学関係者(学生・教職員) 34名 無回答 0名

3) 常設展示室を知った理由

立て看板 36名 ホームページ 16名 ポスター 2名
 授業・講座等 6名 人にすすめられて 22名 その他 34名 無回答 1名

4) 感想

大変よい 68名 よい 46名 どちらともいえない 1名
 つまらない 1名 大変つまらない 0名 無回答 1名

5) 感想・意見・要望等

アンケート117件中111件に自由記述欄の記入があった。

内容を見てみると全般的な感想としては、「大学敷地内からの出土品に興味を持った。歴史ある場所で学生生活が送れてうれしい(鹿大生)」、「菱刈鉱山を調べていて博物館の存在を知った。金鉱床や温泉など土地ならではのことがわかるのがよかった(県外・30代)」などがあった。

展示内容については、「計算機や船速計、動物発生模型など、昔の学術的活動が知れる貴重な資料を見ることができてよかった。鹿児島の植物分布や、植物標本室・コレクションに興味をわいた(鹿大生)」、「植物や動物の進化、化石や岩石、土器など、理系・文系の隔たりなく紹介されていて、学問体系としてそれぞれに密接なつながりのあることが学べた(鹿大生)」などがあった。

その他に意見・要望として、「専門分野に偏りがあるのが残念だ。工学に関するものが見えなかった(鹿大生)」、「鹿児島は火山とかかわりが深いことがわかって、面白かった。高校生や地域の住民向けに、専門用語をわかりやすく、補足して説明がほしい(県外・高校生)」、「ボランティアや通年講座、博物館の運営と関われるような事業などがあれば、ぜひ参加したい(市内・20代)」、「観光案内所でミュージアム周遊パスを入手し、見学にきた。霧島や桜島など鹿児島の自然を体感してきた後だったので、知識がより深まってよかった。魚の図鑑など、自然の多様性がビジュアルでわかる出版物もあって充実した展示だった(県外・60代)」などがあった。

5. 常設展示室 展示品目録－2024年度－(2023年度からの変更点)

展示追加

諏訪考古資料コレクション－南さつま市 杉本寺の蔵骨器(須恵器・土師器)

6. 常設展示室の課題

2004 年 5 月の開館から、2024 年度末までの累年入館者数は、37,810 名となった。

入館者数については、コロナ禍以降、減少した入館者数がなかなか元に戻らずにいる。ここ数年、入試課や国際事業課等からの依頼による団体見学利用が増加・定着してきた一方で、新入生オリエンテーションや講義での団体利用などの機会が減り、とくに年度前半の入館者数は以前と比べると大幅に減少しており、学生に対して広く利用を促すなど、学内での周知をはかっていく必要がある。また、アンケートの回答では現状の展示についての評価・満足度はかなり高いものの、常設展示で魚類関係の展示が見たい、定期的にワークショップやギャラリートークを開催してほしいといった要望もしばしば寄せられている。開館から 20 年以上が経ち、博物館を取り巻く状況もさまざまに変化してきており、利用者からは展示内容の更新や教育普及プログラムの充実を望む声が高まってきている。

アシジロヒラフシアリの大発生による被害 隣接する植物園から侵入するアシジロヒラフシアリに対して、今年度も駆除剤設置による防除を中心として、年間を通して対策を行っている。

展示室内でのアリの発生は 2 月末から 12 月までと長く、展示室内と屋外（当館敷地内）に駆除剤を設置して月に 1～2 回交換し、展示室近くに巣ができないよう落ち葉が堆積したり、雑草が繁茂しないよう、展示室周辺的环境整備にも努めている。

今年度も、梅雨時期に集中して展示室への大量侵入があり、壁・床・天井に広がってしまったアリの駆除するために一時的に展示室を閉めておかなければならないような状況が数日発生した。また、4 月から 6 月にかけては、閉館時にアリの侵入が原因とみられる空間センサーからの異常受信による ALSOK 警備出動が 10 回以上と頻発し、このうち 3 回は警備到着時に実際にセンサー内へのアリの侵入も確認されている。

表 累年入館者数

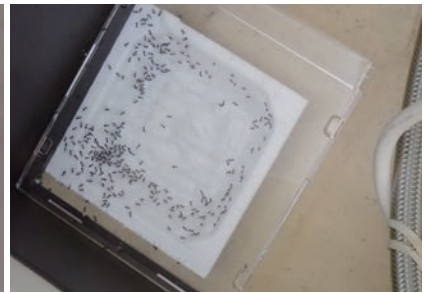
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	団体	一般	開館日数
2004		204	443	379	172	73	201	424	64	64	94	71	2189			208
2005	167	100	187	311	106	94	335	459	76	50	64	81	2030	817	1213	236
2006	176	95	103	216	131	78	169	350	114	78	69	94	1673	587	1086	238
2007	204	97	147	95	231	48	159	914	143	84	82	50	2254	1083	1171	242
2008	317	117	224	151	122	100	188	213	50	55	40	82	1659	780	879	243
2009	184	107	169	73	136	120	51	375	52	60	58	68	1453	551	902	245
2010	219	152	293	115	109	123	84	490	62	94	51	90	1882	729	1153	245
2011	242	159	291	291	129	117	183	337	117	58	72	101	2097	957	1140	245
2012	185	129	102	229	205	25	60	344	115	53	53	136	1636	637	999	245
2013	147	247	241	336	119	91	140	365	103	53	91	96	2029	385	1644	246
2014	235	486	249	275	165	200	124	384	75	55	63	179	2490	636	1854	243
2015	141	235	190	249	324	108	129	327	232	53	107	167	2262	411	1851	243
2016	194	508	196	403	226	70	51	401	109	44	86	122	2410	399	2011	244
2017	129	191	108	117	109	256	113	464	55	62	72	114	1790	364	1426	234
2018	120	199	114	162	224	77	95	593	77	146	61	124	1992	533	1459	243
2019	275	86	149	202	199	58	273	518	95	151	97	65	2168	730	1438	241
2020	18	7	15	48	32	42	152	88	87	86	80	184	839	74	765	221
2021	137	98	78	141	43	0	91	76	54	42	36	90	886	112	774	208
2022	94	57	107	105	92	68	110	168	98	88	93	184	1264	171	1093	230
2023	230	150	111	101	109	88	88	369	94	35	59	49	1483	117	1366	239
2024	67	138	63	83	59	77	168	350	106	71	28	114	1324	319	1005	247
累年入館者数合計													37810			



アリ散乱（1階展示フロア）／スリッパ裏に大量付着



同左



トイレ設置のベイト剤（4/27）



トイレ設置のベイト剤（4/30）



トイレの壁・天井（人感センサー・配線カバー）から展示室1・2階に向かって行列してアリ列続く



天井に行列ができる



ダクトレール・ケーブルラック・天井照明に大量侵入している



警備センサーに群がるアリ

今年度は、3月中旬から6月までは、一昨年度より使用しているハイドロジェルベイト剤を、6月以降は、東京都立大学と株式会社アグリマートなどが共同開発を進めているアシジロヒラフシアリ駆除剤（ムシクリン ハイドロジェル）による防除試験に協力した。

建物の老朽化・メンテナンス 常設展示室も建物改修・開館20年となり、さまざまな老朽化がみられるようになってきた。扉など鉄部材はサビ腐食が進行してきたため本年度修理をおこなった。

また年に数度程度であるが著しい大雨の際には、展示室2F天井に水の染み出しがみられることがある。防水シートの劣化が考えられ、次年度以降に対応の検討が必要である。



鉄の劣化修理箇所



サビ・漏水修理箇所



展示室内 2F 大雨時漏水

4 教育活動

博物館実習・博物館学関連講義

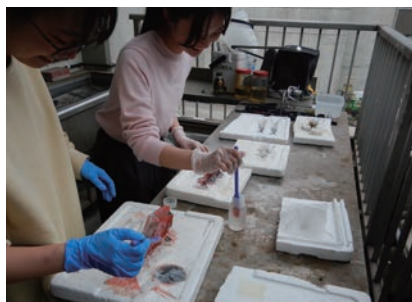
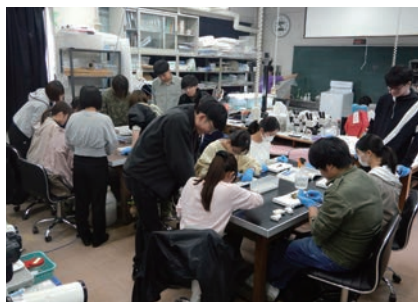
博物館実習 総合研究博物館では、博物館実習の学内実習を分担で担当している。実習受講登録学生は法文学部9名、教育学部2名、理学部6名、水産学部9名、計26名であった。

4月20日、27日は本村が担当し、博物館標本作成室で魚類の液浸標本の作製、登録、撮影作業を行い、およそ200点の標本を新規登録した。

4月20日、5月11日は田金が担当し、植物標本室にて植物のさく葉標本の作成・データベース化（台紙への貼り付け、ラベル情報の入力、標本のスキャンによるデジタル画像化）を行い、163点の植物標本の情報をデータベースに登録した。

橋本は4月27日に法文学部・水産学部、5月6日に教育学部・理学部の実習を担当し、博物館に関わる全分野の基本技術である写真に関する実習を行った。まずは、カメラ・写真に関する基礎知識について説明を行い、理解を深めた後に撮影台の設営から、考古資料の撮影まで行った。全員が一眼レフカメラで撮影するまでを行っている。またあわせて、近年急速に進展しているフォトグラメトリによる3Dデータ作成の解説を行い、そのための資料撮影を行った。また日誌作成中に解析を進め、実習終了時にプロジェクターで確認を行った。また、法文学部学生1名が忌引きで別日実習となったため、5月13日に写真撮影と軟X線による鉄器撮影の実習を行った。

博物館学関連講義 学芸員資格取得のための講義は、資格の取得可能な法文学部・教育学部・理学部・水産学部が受講する科目として共通教育において開講されているが、総合研究博物館の教員も分担して担当している。橋本は、博物館教育論・博物館展示論の責任教員として担当、各2名の非常勤講師の調整を行いつつ講義を実施している。本村・田金は、博物館資料論を分担で実施している。



博物館実習・魚類標本の作製



博物館実習・植物標本の作製・登録



博物館実習・考古資料撮影実習作品

5 出版・広報

2023 年度の出版物は下記のとおりである。

ニューズレター 特別展の情報を掲載した号 1 冊 (No. 51)、総合研究博物館にかかわる情報を掲載した通常号 1 冊 (No. 52)、計 2 冊刊行した。

特別展特集のニューズレター No. 51 は下記の記事を掲載した。

はじめに(本村浩之)、 外来魚とは？(本村浩之)、鹿児島県の外来魚(本村浩之)、駆除か保護か(本村浩之)、川内川の外来魚(大学院連合農学研究科・古橋龍星)、蘭牟田池の外来魚(本村浩之)、鹿児島市永田川の外来魚(大学院連合農学研究科・是枝伶旺)、池田湖の外来魚(大学院連合農学研究科・出羽優風)、離島の外来魚(本村浩之)、外来海水魚問題(本村浩之)、野外でみられる人工交雑魚(大学院連合農学研究科・橋本慎太郎)。全 16 ページ

通常号ニューズレター No. 52 は、総合研究博物館スタッフおよび学外協力研究者、大学院生の研究紹介からなる 6 件の記事を掲載した。著者とタイトルは下記のとおりである。全 16 ページ。

「ホホジロザメの液浸標本を搬入」本村浩之

「海外における魚類調査を振り返る」古橋龍星

「オーストラリアでの魚類標本調査を振り返って」出羽優風

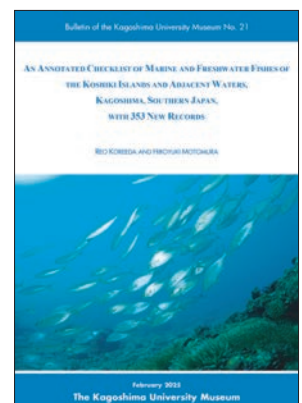
「ラオスとベトナムの石灰岩地における植物多様性研究」山本武能・田金秀一郎

「諏訪考古資料コレクション 6—南さつま市大野の縄文後期土器—」橋本達也

その他出版物 総合研究博物館関連出版物として下記を刊行した。

Bulletin of the Kagoshima University Museum, 21

An annotated checklist of marine and freshwater fishes of the Koshiki Islands and adjacent waters, Kagoshima, southern Japan, with 353 new records
Koreeda, R. and H. Motomura



2024 年度研究報告
Bulletin of the
Kagoshima University
Museum, 21

年報 毎年1冊、前年度分の年報刊行を行ってきたが、2020年度以降COVID-19の影響で企画事業数が少なくなったため、2ヶ年で1冊のペースとなっている。2024年度刊行の年報No.21は、2021年度と2022年度分を1冊として刊行した。

Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 魚類学の基礎的知見の蓄積を目的とし、日本産魚類の分類や分布、生態などの自然史に関するあらゆる分野の論文を和文で掲載する、2020年10月に創刊した査読付きオンラインジャーナル。総合研究博物館が発行。2024年度は75論文が出版された。論文は当館HP (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>) やJ-Stage (<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/ichthy/list/-char/ja>) で公開されている。

ポスター・チラシ 特別展のための広報用ポスターを印刷した。企画展示などのチラシは担当教員が作成し、プリンターでプリントして掲示、配布した。

その他広報 ホームページ、ブログ、Twitter を継続的に更新している。ホームページは橋本、ブログは上村、Twitter は教員3人（橋本・本村・田金）で担当している。

ブログはこれまで利用してきたサービス、ココログに不適切なコマーシャルが入るようになったため、7月26日よりGoogle Broggerの利用に切り替えた。

6 ボランティア活動

魚類標本の作製・登録・データベース化 総合研究博物館では2006年度から魚類標本の受け入れおよび標本の作製を積極的に行っている。ボランティアは本学学生、一般市民、漁業従事者、水族館職員など多彩な構成である。ボランティアの活動は、大きく分けると魚類の採集、学習会、標本の作製と保存、および教育普及活動の4つの要素から成る（詳しくは『総合研究博物館ニューズレターNo. 16』と総合研究博物館出版『魚類標本の作製と管理マニュアル』を参照）。本年度は宮崎大学と鹿児島県環境技術協会から移管された標本と鹿児島県産の標本を中心に約15,000標本の登録を行い、標本データのデータベースと、約30,000件の画像データベースを作成した。

魚類ボランティア学習会 2024年11月25日に連合農学研究科1Fでボランティア学習会として、マレーシア・トレンガヌ大学研究員のSiti Tafzilmeriam Binti Sheikh Abdul Kadir 博士をお招きし、トレンガヌ大学における海洋生物研究の現状と最前線について講演して頂いた。15名の博物館ボランティアと総合研究博物館に滞在中であった京都大学総合博物館の研究員やトレンガヌ大学からの短期留学生なども聴講し、活発な質疑応答が行われた。

植物標本の登録・データベース化 植物標本室では、本学の学生4名が毎週火曜日の午後に博物館ボランティア活動を実施している。通年を通して、未整理標本のデータベース登録や台紙への貼り付け、収蔵室への配架作業等を行った。また、学外の1名にはマウント作業（標本貼り）を中心に標本整理にご協力いただいた。



ボランティア学習会の様子



ボランティア学習会後の記念撮影

7 国際交流

魚類分野 鹿児島大学の「進取の精神」支援基金・全学グローバル交流推進事業によってマレーシア・トレンガヌ大学の大学院生を2024年10月から2025年4月まで受け入れ、博士論文研究の指導を行った。また、インドネシア政府の派遣事業により、ハッサヌディン大学の学部生と大学院生の2名を2024年6月から7月まで受け入れ、魚類標本に関する研修を実施した。さらに、マレーシア・トレンガヌ大学の教員3名を2024年11月23～25日、2025年3月14～21日に、ベトナム・ハノイ大学の教員を2024年6月9～11日に受入れ、共同研究の打ち合わせや標本庫の案内等を行った。2024年6月1～10日にはライス大学の教員と大学院生5名を受入れ、鹿児島湾や屋久島において共同調査を実施した。

一方、2004年6月22日～7月5日、9月18～24日、2025年1月7～16日にトレンガヌ大学と共同でマレーシアの魚類調査を実施し、2025年3月21～30日にはフィリピン・ミンダナオ州立大学と共同でミンダナオ島における魚類調査を実施した。また、2024年5月22～31日にインドネシアとマレーシア、6月1～17日にハワイ、7月1～16日にアメリカ、10月6～27日に台湾、11月16～29日にロシア、11月30日～12月20日にオーストラリアに大学院生を派遣した。

2024年度は、アメリカのスミソニアン自然史博物館、インドネシアの西スラウェシ大学・ハッサヌディン大学・ムハマディヤルウィック大学・アイルランガ大学・国立研究革新庁・ボゴール動物学博物館、ドイツのゼンケンベルク自然博物館、マレーシアのトレンガヌ大学・国民大学・サインズ大学、オーストラリアのオーストラリア連邦科学産業研究機構・ノーザンテリトリー博物館・美術館、フィリピンのフィリピン大学・ミンダナオ州立大学などと共同研究を実施し、14論文を出版した。

植物分野 ラオス国立大学（森林科学部・自然科学部・環境科学部）、ベトナム科学技術アカデミー（生態学生物資源研究所・熱帯生態学研究所・ハノイ科学技術大学・ベトナム自然博物館）、ベトナム国立大学、ベトナム南部森林研究所、ホーチミン市立教育大学、タイ王立森林局、サラワク森林局、サラワク州森林公社、ミナス・ジェライス連邦大学・ベルナンブコ国立大学・ジュイス・デ・フォラ国立大学（ブラジル）、チューリッヒ大学（スイス）、フランス自然史博物館、フロリダ大学（アメリカ合衆国）、アナタナナリボ大学（マダガスカル）の研究者と共同研究を実施し、東南アジアまたはマダガスカルの植物を中心に20本の論文を出版し、学会で7件の発表を行った。また、バコ国立公園（マレーシア）、キエンザン省とアンザン省の石灰岩地、フォンニャ・ケバン国立公園、カッタバ国立公園（ベトナム）、プーヒンブーン国家保護区（ラオス）にて野外調査を行い、植物標本資料の収集および現地との研究者と共同研究を通じた学术交流を図った。



アメリカ・ピッツバーグにて：魚類分野



アメリカ・ライス大学と屋久島共同調査：魚類分野



マレーシア調査 in エンダウ：魚類分野



ミンダナオ州立大学と共同調査：魚類分野

8 標本管理活動

1. 植物標本室

植物標本室（KAG）のデータベース化 植物標本室では収蔵する植物標本の全容把握とその管理・利便性向上のため、植物標本のデータベース化を2003年から継続して実施している。本年度においても、鈴木英治氏（前館長、現国際島嶼教育研究センター）、一般財団法人沖縄美ら島財団との共同研究「西表植物誌編纂事業のためのデータベース」と公益財団法人長尾自然環境財団の研究「ラオスとベトナムのカルスト地における植物の多様性評価」の遂行に伴って雇用した技術補佐員1名（西原業利氏）、および博物館ボランティア4名と共に、植物標本の整理・データベース化作業を進めた。

2024年度は5,067点の植物標本をKAGデータベースに登録し、植物標本室のウェブサイト (<https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/hyouhonsitu.html>; 2024/6/10の時点で165,781件を公開) および島根大学生物資源科学部デジタル標本館 (<http://tayousei.life.shimane-u.ac.jp/harbarium/>) にて公開を行った。また、これらの標本情報のうち8,000件をサイエンスミュージアムネット（S-Net <http://science-net.kahaku.go.jp>）に提供し、公開を進めた。

2023年1月より、世界規模での植物標本館ネットワークであるJSTOR Global Plants (<https://plants.jstor.org/>) とパートナー契約を交わし、KAGが収蔵するタイプ標本の高解像度画像の提供を開始している。2年目となる今年度においても、引き続きタイプ標本の確認とその高解像度画像の取得を進め、新たに42点の標本情報・画像を提供し、web公開を行った。現在までに82点を公開しているが、KAGには現在までに約200点の「タイプ」とされる標本が確認されており、これらの真偽やタイプの種別の確認作業を丁寧に進め、次年度以降も順次公開していきたい。

学外研究者等による研究活動 学外研究者の丸野勝敏氏は、2022年度に引き続き、ご自身が採集された植物標本約2万点を整理するため、標本室に時折来館され、標本ラベル作成などの作業に従事された。

新規植物標本の受け入れ・寄贈状況 2024年度は田金が野外調査を通して国内から463点、海外から3,263点（ラオス1,653点、ベトナム1,376点、マダガスカル234点）の植物標本を生態写真および遺伝子解析用試料と共に収集し、KAGデータベースに登録した。

学外の方から次の点数の標本を寄贈標本として賜った：藤井伸二氏（150点）、茨木靖氏（69点；徳島県立博物館からの寄贈標本）、片野田逸朗氏（33点）、立久井昭雄（10点）、金光浩伸（7点）、田中睦美（7点）、中村康則（6点）、中西弘樹（11点）、上村真寛（2点）、森脇大樹（20点）、竹口輝（1点）、いがりまさし（1点）、新原修一（1点）。加えて、埼玉県在住の有馬氏からも、百点余りの標本をご寄贈いただき、現在整理・登録作業を進めている。

植物標本の利用状況 植物標本資料と写真や遺伝子解析用のサンプルなどのそれに付随する資料の活用状況を以下の表に記す。インターネット上で公開している KAG データベースの閲覧者数については、1,588 件（2021 年）、3,022 件（2022 年度）、1,978 件（2023 年度）、1,966 件（本年度）と推移している。

表. 2024 年度の総合研究博物館所蔵の植物標本の利用状況（インターネット上の KAG データベース閲覧者は除く）

利用年月	貸し出し・利用者の所属先	分類群	点数	利用目的
2024 年 5 月	国立科学博物館	植物標本画像	1	展示
2024 年 5 月	テレビ西日本	植物の生態写真	4	放送
2024 年 5 月	熊本大学	Croomia	4	研究
2024 年 5 月	東北大学	Hopea, Nagiea, Podocarpus, Shorea, Taxus, Vatica	20	研究
2024 年 5 月	Sungshin Women's University, Korea	Viola	約 1500	研究
2024 年 6 月	東京都立大学	Argostemma	4	研究
2024 年 7 月	兵庫県立博物館	Commelinaceae	14	研究
2024 年 9 月	大阪教育大学	Adenophora	30	研究
2024 年 10 月	株式会社いであ	Ludwigia, Selliuea	20	研究
2024 年 10 月	愛媛県歴史文化博物館	日野富三郎採取標本	11	研究
2024 年 10 月	お茶の水女子大学	Lindera	4	研究
2025 年 2 月	東京都立大学	Asplenium	3	研究
2025 年 2 月	昭和大学	Tectariaceae	12	研究
2025 年 3 月	横須賀市自然・人文博物館	Dryopteris	約 100	研究
2025 年 3 月	兵庫県立大学	Scutellaria	約 100	研究

2. 動物標本の利用状況

2024 年度の総合研究博物館所蔵動物標本・資料の利用状況を報告する（学内での利用数は膨大であるため除く）。

動物標本の利用状況

貸出・利用年月	分類群	標本・資料	点数	貸出・利用先	目的
2024 年 4 月	魚類	標本画像	6	国立科学博物館	研究
2024 年 4 月	魚類	液浸標本	3	国立科学博物館	研究
2024 年 4 月	魚類	液浸標本	21	九州大学	研究
2024 年 4 月	魚類	液浸標本	21	国立科学博物館	研究
2024 年 4 月	魚類	標本画像	2	小学館	雑誌
2024 年 5 月	甲殻類	液浸標本	4	琉球大学	研究
2024 年 5 月	魚類	液浸標本	6	ボゴール動物学博物館	研究
2024 年 5 月	魚類	標本画像	28	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2024 年 5 月	魚類	標本画像	15	京都大学	研究
2024 年 5 月	魚類	標本画像	17	ボゴール動物学博物館	研究
2024 年 5 月	魚類	標本画像	21	九州大学	研究
2024 年 5 月	魚類	筋肉組織	10	ボゴール動物学博物館	研究
2024 年 5 月	魚類	液浸標本	10	Pukyong National University, Korea	研究
2024 年 5 月	魚類	筋肉組織	3	Pukyong National University, Korea	研究
2024 年 6 月	魚類	標本画像	152	Institute of Marine Research, Norway	研究
2024 年 6 月	魚類	液浸標本	2	宮内庁	研究
2024 年 6 月	魚類	標本画像	2	南日本新聞	新聞
2024 年 7 月	魚類	筋肉組織	10	VNU University of Science, Vietnam	研究
2024 年 7 月	魚類	標本画像	20	VNU University of Science, Vietnam	研究
2024 年 7 月	魚類	液浸標本	7	University of Washington, USA	研究
2024 年 7 月	魚類	標本画像	9	かごしま水族館	展示
2024 年 7 月	魚類	液浸標本	7	かごしま水族館	展示
2024 年 7 月	魚類	標本画像	38	Institute of Marine Research, Norway	研究
2024 年 7 月	魚類	標本画像	12	University of Washington, USA	研究

2024 年 7 月	魚類	液浸標本	2	University of Washington, USA	研究
2024 年 7 月	魚類	筋肉組織	2	University of Washington, USA	研究
2024 年 7 月	魚類	標本画像	13	University of California, Santa Cruz, USA	研究
2024 年 7 月	魚類	筋肉組織	5	University of California, Santa Cruz, USA	研究
2024 年 7 月	魚類	液浸標本	256	Rice University, USA	研究
2024 年 7 月	甲殻類	液浸標本	1	京都大学	研究
2024 年 8 月	魚類	筋肉組織	8	University of Hong Kong	研究
2024 年 8 月	魚類	液浸標本	8	University of Hong Kong	研究
2024 年 8 月	魚類	筋肉組織	8	Smithsonian Institute, USA	研究
2024 年 8 月	魚類	液浸標本	8	Smithsonian Institute, USA	研究
2024 年 8 月	魚類	標本画像	8	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2024 年 8 月	魚類	液浸標本	5	京都大学	研究
2024 年 8 月	魚類	標本画像	2	Victoria Museum, Australia	研究
2024 年 8 月	魚類	液浸標本	1	国立科学博物館	研究
2024 年 8 月	魚類	筋肉組織	1	国立科学博物館	研究
2024 年 9 月	魚類	標本画像	2	九州大学	研究
2024 年 9 月	魚類	液浸標本	15	北九州市立自然史・歴史博物館	研究
2024 年 9 月	魚類	液浸標本	4	千葉県立中央博物館	研究
2024 年 9 月	魚類	液浸標本	1	宮内庁	研究
2024 年 9 月	魚類	標本画像	6	NHK	番組
2024 年 9 月	魚類	標本画像	9	奄美海洋展示館	展示
2024 年 9 月	魚類	液浸標本	3	神奈川県立生命の星・地球博物館	研究
2024 年 9 月	魚類	液浸標本	1	宮内庁	研究
2024 年 10 月	魚類	液浸標本	5	国立科学博物館	研究
2024 年 10 月	魚類	標本画像	3	国立研究開発法人水産研究・教育機構	研究
2024 年 10 月	魚類	標本画像	96	博多	研究
2024 年 11 月	魚類	標本画像	1	テレビ東京	番組
2024 年 11 月	魚類	液浸標本	5	国立科学博物館	研究
2024 年 11 月	魚類	液浸標本	1	三重大学	研究
2024 年 11 月	魚類	標本画像	4	Australian Museum, Australia	研究
2024 年 11 月	魚類	液浸標本	9	東京大学	研究
2024 年 11 月	魚類	標本画像	18	高知大学	研究
2024 年 11 月	魚類	液浸標本	3	高知大学	研究
2024 年 11 月	魚類	筋肉組織	3	高知大学	研究
2024 年 11 月	魚類	筋肉組織	8	東海大学	研究
2024 年 11 月	魚類	標本画像	202	高知大学	研究
2024 年 11 月	魚類	液浸標本	10	高知大学	研究
2024 年 11 月	魚類	筋肉組織	2	Australian Museum, Australia	研究
2024 年 11 月	魚類	標本画像	2	三重大学	研究
2024 年 11 月	魚類	液浸標本	1	三重大学	研究
2024 年 11 月	魚類	筋肉組織	3	北海道大学	研究
2024 年 11 月	魚類	標本画像	186	北海道大学	研究
2024 年 11 月	魚類	液浸標本	11	北海道大学	研究
2024 年 11 月	魚類	液浸標本	7	京都大学	研究
2024 年 12 月	魚類	液浸標本	3	三重大学	研究
2024 年 12 月	魚類	筋肉組織	1	三重大学	研究
2024 年 12 月	魚類	標本画像	12	サバ大学ボルネオ海洋研究所	研究
2024 年 12 月	魚類	液浸標本	264	沖縄科学技術大学院大学	研究
2024 年 12 月	魚類	筋肉組織	114	沖縄科学技術大学院大学	研究
2025 年 1 月	魚類	筋肉組織	2	高知大学	研究
2025 年 1 月	魚類	液浸標本	1	千葉県立中央博物館	研究
2025 年 1 月	魚類	標本画像	10	千葉県立中央博物館	研究
2025 年 1 月	魚類	筋肉組織	18	北海道大学	研究
2025 年 1 月	魚類	液浸標本	5	北海道大学	研究
2025 年 3 月	魚類	液浸標本	9	北海道大学	研究
2025 年 3 月	魚類	液浸標本	2	宮内庁	研究
				合計 80 件 1816 点	

3. その他の標本等の管理・利用

資料の登録 鹿児島高等農林学校の植物採集において、新聞には含まれたまま保管された予備標本が大量に存在しており、その標本および新聞の整理・登録を継続している。とくに新聞は稀少資料を含む可能性があるため、新聞名・年月日等の基本情報に加えて、記載記事見出しのテキストデータの登録を行っている。2024年度は約200件の登録を行った。

鹿児島高等農林学校の文書資料データの登録、整理を継続して行っている。2024年度は2件。

理学部地球環境科学科（旧地学科）から移管された化石標本について、標本収蔵状態に問題があり、資料情報も不明なものが多いため、整理・再収納を継続的に行っている。2024年度は約410件の整理を行った。

資料の受け入れ 前年度に引き続き、理工学研究科地域コトづくりセンター中央実験工場より、呉海軍工廠で使用されていた測定器などを寄贈を受けた。工場の片隅に保管されていたものである。

資料の問い合わせ等 筑波大学大学院生（博士課程留学生）よりアナグマ骨格標本について、所蔵の有無および調査の可否の問い合わせがあった。松元光春名誉教授に確認したところ、獣医医学部解剖学研究室で良好な骨格を保管しているとのことであったため、獣医学部での調査手続きの連絡調整をおこなった。

形ノ山ゾウ化石の所在について調査当時の関係者から問い合わせがあった。当館でゾウ化石は所蔵しておらず西之表市鉄砲館にあることの連絡をおこなったが、資料保管に至る当事者間での連絡調整に不備があったとの指摘を受けた。本件は理学部地学教室の問題であることの説明をおこなった。

法文学部教員より、当館所蔵の教育研究史資料を一覧したいとの希望があり、収蔵庫を案内した。今後の研究テーマのための検討。

（公財）鹿児島県文化振興財団 上野原縄文の森が、2024年12月21日（土）～2025年3月9日に開催する企画展「人と遺跡のものがたり ～かごしまの考古学研究史～」での利用のため、諏訪考古資料コレクションの調査および借用の対応をおこなった。縄文土器・松木園式土器・杉本寺出土土器の貸出をおこなった。

NHK 科学文化部が、石宙明に関する番組を企画し、その対応をおこなった。石宙明は鹿児島高等農林学校の卒業生で、蝶の研究で韓国のファールとも呼ばれる。番組用に石の恩師・岡島銀次の写真貸出、石の得業論文等の撮影に対応した。放送は、3/16（日）、NHK 総合午前7時台ニュース「おはよう日本」内コーナー、3月21日（金）NHK-World・NEWSLINE IN DEPTH（英語版）、4月7日（月）国際報道2025、4月10日（木）NHK 総合午後のニュースーン記者解説でおこなわれた。

資料の利用 その他、以下の表のとおり利用があった。

2023年度のその他標本の利用状況

利用年月	標本・資料	利用形態	点数	利用先	目的
2024年4月	考古学図書	借用	1	学内	研究
2024年4月	考古学図書	借用	1	学内	研究
2024年6月	考古学図書	借用	1	学内	研究
2024年10月	アミノクロウサギ臼歯化石写真	借用	1	沖縄県立博物館・美術館	展示
2024年10月	サメ歯化石写真	掲載		個人	寄稿
2024年12月～ 2025年3月	諏訪コレクション考古資料	借用	25	上野原縄文の森	企画展展示
2024年12月	形ノ山化石標本（魚類）	掲載	1	北九州市立自然史・歴史博物館	研究発表



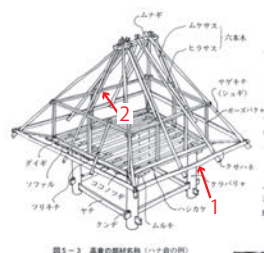
上野原縄文の森資料貸出



NHK 石宙明資料撮影

奄美の高倉の管理 2024年8月29日鹿児島県に上陸した台風第10号は、各地で大きな被害をもたらした。この台風によって、当館所蔵の奄美の高倉も損傷を受けたため、文部科学省の台風被害による災害復旧費を申請し、2025年3月4～5日に修理を実施することができた。

2024年台風10号に伴う奄美の高倉 構造物折損状況



折損箇所修理状況

折損箇所および折損状況

9 2023 年度 専任教員の活動業績

橋本 達也 [教授]

(1) 教育活動

1) 共通教育

共通教育科目「古代東アジアの王陵」担当

共通教育科目「博物館展示論」担当

共通教育科目「博物館教育論」担当

2) その他

「博物館実習」担当

共有教育「大学と地域」話題提供講師

(2) 研究活動

1) 著書

広瀬和雄編 2024.06『日本考古学の論点』④ 雄山閣 (担当:共著, 範囲:橋本達也「古墳時代甲冑の形式・編年・年代論提要」pp. 95-102)

2) 論文(査読有)

橋本達也 2024.5「大隅の古墳群の新しい成果と今後の課題」『鹿児島考古』第53号 鹿児島県考古学会

3) 論文等(査読無)

橋本達也 2024.5「甲冑」『季刊考古学』167 雄山閣 pp. 42-45

橋本達也 2024.6「島内114号地下式横穴墓の龍文銀象嵌大刀」『九州前方後円墳研究会論集』九州前方後円墳研究会

橋本達也 2025.3「大仙陵古墳の甲冑とその年代」『待兼山考古学論集』大阪大学考古学研究室

橋本達也 2025.3「稲部遺跡の装飾紋とその考古学的評価」『稲部遺跡 19次・27次発掘調査報告書－古墳時代初頭の導水遺構と靱の調査－』彦根市

4) その他

橋本達也 2024.7「肇国聖蹟の研究－神代を実体化した近現代遺跡－」『2024年度鹿児島県考古学会 総会・研究発表会』鹿児島県考古学会 pp. 11-14

橋本達也 2024.9「高屋山上陵事務所修繕工事に伴う立会調査見学」『考古学研究』第71巻第2号 考古学研究会 pp. 3-4

橋本達也 2024.12「木甲の製作技法－弥生後期前半・糸島市深江石町遺跡出土例－」『第20回古代武器研究会発表資料集』古代武器研究会事務局 p. 80

橋本達也 2025.3「諏訪考古資料コレクション6－南さつま市大野の縄文時代後期土器－」『鹿児島大学総合研究博物館 Newsletter』52号 鹿児島大学総合研究博物館 pp. 12-16

4) 学会・研究会発表

戸塚洋輔・森岡秀人・吉田広・若林邦彦・橋本達也・東村純子・植田直見・小村眞理・木沢直子 2024.5.26「滋賀県彦根市稲部遺跡出土の3世紀の靱」『一般社団法人 日本考古学協会第90回総会』一般社団法人日本考古学協会 千葉大学

橋本達也 2024.7.13「肇国聖蹟の研究－神代を実体化した近現代遺跡－」2024年鹿児島県考古学会研究発表会 鹿児島大学

橋本達也 2024.11.30 大隅総文祭関連イベント企画展「タイムトリップ! 鹿屋の歴史再発見!」ギャラリー トーク リナシティかのや2F ギャラリー

橋本達也 2024.12.21-22 木甲の製作技法－弥生後期前半・糸島市深江石町遺跡出土例－ 第20回古代武器研究会

橋本達也 2025.2.8「福昌寺跡キリシタン墓地とは－調査に至るまで－」第44回鹿児島大学総合研究博物館市民講座『福昌寺キリシタン墓地の調査成果と潜伏キリシタン史』鹿児島大学連合大学院農学研究科棟大会議室

橋本達也 2024.11.3 企画展関連講座「基礎から学ぶ古墳時代と島内地下式横穴墓群」えびの市歴史民俗資料館

橋本達也 2025.3.8「武装具から沖ノ島祭祀を考える」令和6年度世界遺産「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群公開講座第3回「沖ノ島祭祀を奉獻品から考える」宗像市海の道むなかた館講義室

(3) 外部資金

研究代表者

基盤研究B 2022年度～2025年度. 陪冢と大量器物埋納の再分析に基づく巨大古墳群の構造把握と社会複雑化過程の研究

(4) 社会貢献

1) 学会・公的機関などの役職・委員会委員等

文化財保存全国協議会全国委員

鹿児島県考古学会幹事

九州前方後円墳研究会幹事

古代武器研究会幹事

東串良町唐仁古墳群保存活用検討委員会委員

鹿屋市岡崎古墳群検討委員会委員

延岡市史編集委員会専門部会(考古部会)特別調査委員

2) 調査指導・協力

2024年8月20～21日 (公財)京都市埋蔵文化財調査研究センター、幾坂40号墳調査指導(京丹後市)

2024 年 9 月 4 日 指宿市尾長谷迫遺跡発掘調査指導
2024 年 9 月 24 ~ 27 日 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会、特別研究事業に係る国宝調査（宗像市）
2024 年 11 月 5 日 「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会、国宝沖ノ島出土品 X 線画像検討会
2025 年 2 月 25 ~ 27 日 延岡市史、古墳出土鉄器類を主とした調査
通年 えびの市島内 139 号地下式横穴墓出土資料整理作業

(5) 学内委員

放射線安全管理委員会委員
学芸員資格科目委員会委員
総合研究博物館 第 44 回市民講座 担当

(6) 調査研究

大崎町神領 10 号墳の研究
えびの市島内 139 号地下式横穴墓出土資料調査

(7) 報道関係

2024 年 5 月 5 日「県内最古級の古墳か 弥生～古墳時代の鹿屋・名主原遺跡」南日本新聞
2024 年 5 月 22 日「気ままに時間旅行② 宮崎の古墳 西都原の盟主は天皇の妃 独自の社会守った集団も」西日本新聞
2024 年 5 月 28 日「遺跡が伝えるもの」『広報かのや』Vol. 442
2025 年 1 月 1 日「歴史館所蔵の蛇行剣 肝付 古墳で出土波打つ刀身」南日本新聞
2024 年 7 月 27 日「弥生時代の木製よろい 深江石町遺跡から出土 糸島 ほぼ完全な形 国内初」毎日新聞
2024 年 12 月 1 日「縄文人の落とし物どこへ 鹿児島・喜界島隆起サンゴ礁に埋没の石器盗難か」毎日新聞
2025 年 3 月 8 日「指宿・敷領遺跡 古墳時代の大規模集落」南日本新聞

本村 浩之 [教授]

(1) 教育活動

1) 専門教育

農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学倫理特論」
農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅰ」
農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅱ」
農林水産学研究科専門科目「環境フィールド科学特別研究Ⅲ」
農林水産学研究科専門科目「生物環境科学特別講義」
大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別演習」（前期・後期）
大学院連合農学研究科専門科目「水産資源環境科学特別研究」（前期・後期）

2) その他

博物館資料論（前期）
博物館実習（前期）
博物館実習（理系学部合同）事後指導（後期）

3) 研究教育

主査：博士課程 6 人，修士課程 9 人，学部 2 人
副査：博士課程 1 人，修士課程 4 人

(2) 研究活動

1) 研究論文（査読付）

Mochizuki, K. and H. Motomura. 2024 (Apr.). Distributional range extension of the shallow water scorpionfish *Parascorpaena poseidon* (Perciformes: Scorpaenidae), with a revised diagnosis of the species. *Species Diversity*, 29: 91-98. Doi: 10.12782/specdiv.29.91 (4 Apr. 2024)
中村潤平・土田洋之・本村浩之. 2024 (Apr.). 鹿児島県大隅半島東岸から得られた国内 3 個体目のカガヤキミゾイサキ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 43: 1-4. Doi: 10.34583/ichthy.43.0_1 (9 Apr. 2024).
幸大二郎・津野義大・遠藤広光・本村浩之. 2024 (Apr.). オイランヨウジとカスミオイランヨウジの標徴に関わる新知見と日本からの追加記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 43: 11-19. Doi: 10.34583/ichthy.43.0_11 (12 Apr. 2024).
Hashimoto, S. and H. Motomura. 2024 (Apr.). A new species of bigeye, *Priacanthus gracilis* (Perciformes: Priacanthidae), from eastern Australia. *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-024-00969-x (22 Apr. 2024), 72 (1): 85-97 (24 Jan. 2025).
Hata, H. and H. Motomura. 2024 (May). A new species of the anchovy genus *Stolephorus* Lacepède 1803, and redescrptions of *Stolephorus carpentariae* (De Vis 1882) and *Stolephorus holodon* (Boulenger 1900) (Clupeiformes: Engraulidae). *Ichthyological Research*, doi: 10.1007/s10228-024-00971-3 (30 May 2024), 72 (1): 98-116 (24 Jan. 2025).
阿部健志郎・清和凌河・坂井陽一・古橋龍星・本村浩之. 2024 (June). 口永良部島から得られた南限更新記録 2 種を含む魚類 57 種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 1-14. Doi: 10.34583/ichthy.45.0_1 (1 June 2024).
中島田正希・中村潤平・藤田晴大・本村浩之. 2024 (June). 奄美群島から得られた北限記録のハナアマダイ. *魚類学雑誌*, doi: 10.11369/jji.24-014 (3 June 2024), 71 (2): 229-235 (5 Nov. 2024).
是枝伶旺・三木涼平・本村浩之. 2024 (June). 宮崎県から得られた九州初記録のキマダラハゼ. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 45: 46-51. Doi: 10.34583/ichthy.45.0_46 (8 June 2024).

- 中村亮太・大井真人・柴田峻一郎・是枝伶旺・本村浩之. 2024 (June). 沖永良部島初記録の魚類 7 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 45: 52-57. Doi: 10.34583/ichthy.45.0_52 (8 June 2024).
- 栗山顕太・本村浩之. 2024 (June). 奄美大島と沖縄諸島から得られたヒラメ科魚類メガレイの記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 45: 62-67. Doi: 10.34583/ichthy.45.0_62 (11 June 2024).
- Matsumoto, T. and H. Motomura. 2024 (June). Two new species of the scorpionfish genus *Neomerinthe* Fowler 1935 (Teleostei: Scorpaenidae) from northwestern Australia. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-024-00975-z (14 June 2024), 72 (1): 130-145 (24 Jan. 2025).
- 古橋龍星・本村浩之. 2024 (June). 奄美大島から得られた標本に基づく日本初記録のニザダイ科魚類 *Acanthurus auranticavus* マジナクロハギ (新称). 魚類学雑誌, doi: 10.11369/jji.24-012 (25 June 2024), 71 (2): 163-171 (5 Nov. 2024).
- Hata, H. and H. Motomura. 2024 (July). A new species of anchovy, *Stolephorus astrum* (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae), from Palau, Micronesia. Raffles Bulletin of Zoology, 72: 150-161. Doi: 10.26107/RBZ-2024-0013 (2 July 2024).
- 前田知範・久木田直斗・是枝伶旺・本村浩之. 2024 (July). 鹿児島県と宮崎県から得られた九州沿岸初記録のアカフジテンジクダイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 46: 25-30. Doi: 10.34583/ichthy.46.0_25 (18 July 2024).
- Hata, E. and H. Motomura. 2024 (Aug.). *Neotrygon yakkoiei*, a new bluespotted maskray (Dasyatidae) from Japan. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-024-00989-7 (1 Aug. 2024), 72 (2): 229-239 (26 Apr. 2025).
- 幸大二郎・萩原清司・本村浩之. 2024 (Aug.). 奄美大島から得られた北西太平洋初記録のヨウジウオ科魚類 *Festucalex wassi* Dawson, 1977 ミナミアマクサヨウジ (新称). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 47: 5-8. Doi: 10.34583/ichthy.47.0_5 (6 Aug. 2024).
- 古橋龍星・赤池貴大・是枝伶旺・橋本慎太郎・樋口聡文・金井聖弥・潮上太郎・中村亮太・清水直人・本村浩之. 2024 (Aug.). 与那国島から得られた魚類 43 種の記録. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 47: 9-20. Doi: 10.34583/ichthy.47.0_9 (10 Aug. 2024).
- Cabebe-Barnuevo, R., K. Mochizuki and H. Motomura. 2024 (Aug.). Monophyly and re-definition of the Indo-Pacific scorpionfish genus *Parascorpaena* Bleeker 1876 (Scorpaenidae). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-024-00991-z (13 Aug. 2024), 72 (2): 240-251 (26 Apr. 2025).
- Nurjirana, A. I. Burhanuddin, A. Haris, A. M. Moore, A. Gani, V. Hasan, H. Motomura, H. Kobayashi, Haryono and D. F. Mokodongan. 2024 (Aug.). Occurrence and new data for the endemic amphidromous goby *Lentipes mekonggaensis* in Central Sulawesi, Indonesia. Cybium, doi: 10.26028/CYBIUM/2024-025 (23 Aug. 2024), 48 (4): 303-307 (Dec. 2024).
- Yuki, D., H. Endo and H. Motomura. 2024 (Aug.). First Japanese record of *Corythoichthys intestinalis* (Teleostei: Syngnathidae) from the Ryukyu Islands. Species Diversity, 29: 247-253. Doi: 10.12782/specdiv.29.247 (23 Aug. 2024).
- Zainal Abidin, D. H., S. A. M. Nor, Y. G. Seah, M. Sharol Ali, N. A. Abdul Latiff, R. A. Cabebe-Barnuevo, H. Motomura, T. N. A. M. Jaafar. 2024 (Aug.). Malaysia's first record of the elusive scaleless spiny waspfish *Ablabys gymnothorax* Chungthanawong & Motomura 2018 (Perciformes, Synanceiidae, Tetraroginae). Sains Malaysiana, 53 (8): 1741-1747. Doi: 10.17576/jsm-2024-5308-02 (24 Aug. 2024).
- 幸大二郎・遠藤広光・本村浩之. 2024 (Oct.). 高知県沖の島から得られた北西太平洋初記録のヨウジウオ科魚類 *Festucalex gibbsi* Dawson, 1977 ギブスアマクサヨウジ (新称). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 48: 19-21. Doi: 10.34583/ichthy.48.0_19 (9 Oct. 2024).
- Cabebe-Barnuevo, R. and H. Motomura. 2024 (Oct.). Recently published Red Sea record of *Parascorpaena mossambica* (Peters, 1855) (Teleostei: Scorpaenidae) based on misidentification of *Sebastapistes strongia* (Cuvier, 1829). Biogeography, 26: 17-20. Doi: 10.11358/biogeography.26.17 (21 Oct. 2024).
- Hata, H. and H. Motomura. 2024 (Oct.). Material evidence of *Stolephorus mercurius* (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae) from Sri Lanka, with a key to Sri Lankan species of *Stolephorus*. Biogeography, 26: 25-28. Doi: 10.11358/biogeography.26.25 (21 Oct. 2024).
- Hashimoto, S., R. Koreeda, M. R. Izarenah, Y. G. Seah and H. Motomura. 2024 (Oct.). First record of *Priacanthus blochii* (Actinopterygii: Eupercaria: Priacanthidae) from Malaysia. Acta Ichthyologica et Piscatoria, 54: 243-247. Doi: 10.3897/aiep.54.134405 (25 Oct. 2024).
- 石丸 淳・古橋龍星・本村浩之. 2024 (Oct.). 日本産マールカスミノカエルウオの追加記録ならびに国内における本種の分布状況. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 48: 47-54. Doi: 10.34583/ichthy.48.0_47 (28 Oct. 2024).
- Dewa, Y. and H. Motomura. 2024 (Oct.). First records of two triplefins, *Enneapterygius rhothion* and *Enneapterygius olivaceus* (Actinopterygii: Blenniiformes: Tripterygiidae), from Australia and Vanuatu. Acta Ichthyologica et Piscatoria, 54: 261-268. Doi: 10.3897/aiep.54.135448 (31 Oct. 2024).
- Hata, H. and H. Motomura. 2024 (Oct.). Redescription and distributional range extension of the poorly known anchovy *Stolephorus brachycephalus* (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae). Natural History Bulletin of the Siam Society, 66 (1): 3-17 (31 Oct. 2024).
- Koreeda, R., Y. G. Seah and H. Motomura. 2024 (Nov.). First records of the Vanishing Silhouette Goby *Silhouettea evanida* (Pisces: Actinopterygii: Gobiidae) from the South China Sea, with notes on reproductive behavior of the species. Thalassas, 41: 8 (10 pp.). Doi: 10.1007/s41208-024-00756-5 (7 Nov. 2024).
- Hata, H., K. Wibowo, S. Lavoué, J. J. Pogonoski, S. A. Appleyard and H. Motomura. 2024 (Nov.). Enhanced data on *Stolephorus grandis* and *Stolephorus waitei* (Teleostei: Clupeiformes: Engraulidae), two species endemic to the Sahul Shelf, western Pacific Ocean. Zootaxa, 5538 (1): 1-22. Doi: 10.11646/zootaxa.5538.1.1 (13 Nov. 2024).
- 中村亮太・渡辺隆太・大井真人・本村浩之. 2024 (Nov.). 宮崎県南部から得られた九州沿岸初記録を含む南方系魚類 7 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 49: 61-67. Doi: 10.34583/ichthy.49.0_61 (23 Nov. 2024).
- Dewa, Y. and H. Motomura. 2024 (Nov.). *Enneapterygius pallidoserialis*, a junior synonym of *Enneapterygius*

- erythrosoma* (Perciformes: Tripterygiidae). Species Diversity, 29: 409-413. Doi: 10.12782/specdiv.29.409 (25 Nov. 2024)
- 畑瑛之郎・本村浩之. 2024 (Dec.). 山口県上関町から得られた瀬戸内海初記録ならびに分布東限記録のシロエイ. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 50: 1-5. Doi: 10.34583/ichthy.50.0_1 (4 Dec. 2024).
- Cabebe-Barnuevo, R., K. Wibowo and H. Motomura. 2024 (Dec.). Redescription of *Parascorpaena moultoni* (Whitley, 1961) (Actinopterygii, Scorpaenidae), with new distribution records for the species. ZooKeys, 1219: 271-285. Doi: 10.3897/zookeys.1219.134970 (4 Dec. 2024).
- Matsunuma, M., Y. G. Seah and H. Motomura. 2024 (Dec.). Review of *Apistus* (Synanceiidae: Apistinae) with description of a new species from the Arabian Sea and taxonomic status of *Apistus balnearum* Ogilby 1910, a junior synonym of *Apistops caloundra* (De Vis 1886). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-024-00998-6 (11 Dec. 2024)
- 中島田正希・岡本 誠・本村浩之. 2024 (Dec.). 駿河湾から得られた静岡県初記録ならびに北限記録のオリブヒメスミクイウオ (スミクイウオ科). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 50: 11-15. Doi: 10.34583/ichthy.50.0_11 (11 Dec. 2024).
- Russell, B. C., H. Motomura and R. Furuhashi. 2024 (Dec.). The taxonomic status of the lizardfishes *Saurida elongata* (Temminck and Schlegel 1846) and *S. eso* Jordan and Herre 1907 with comments on the validity of *S. argyrophanes* (Richardson 1846). Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-024-01004-9 (19 pp.; 13 Dec. 2024)
- 畑瑛之郎・黒木健介・本村浩之. 2024 (Dec.). 与論島初記録のハシナガヤモリザメ, および本種に近似するタイワンヤモリザメの日本国内における分布状況. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 50: 16-22. Doi: 10.34583/ichthy.50.0_16 (20 Dec. 2024).
- 橋本慎太郎・中村潤平・本村浩之. 2024 (Dec.). 九州南部から琉球列島にかけて確認されたハタ科魚類の交雑個体 (クエ×タマカイとアカマダラハタ×タマカイ) の記録. 日本生物地理学会会報, 79: 9-18 (20 Dec. 2024).
- 中村潤平・柏木伸幸・西田和記・堀江 諒・本村浩之. 2024 (Dec.). 鹿児島湾内に位置するかごしま水族館の屋外生物展示水域「イルカ水路」の魚類相. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 50: 26-55. Doi: 10.34583/ichthy.50.0_26 (25 Dec. 2024).
- Matsumoto, T. and H. Motomura. 2025 (Jan.). *Phenacoscorpius trispinis*, a new species of scorpionfish (Teleostei: Scorpaenidae) from Sagami Bay, Japan. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-024-01008-5 (9 pp.; 11 Jan. 2025)
- 古橋龍星・久高健飛・本村浩之. 2025 (Jan.). ベラ科イラ属の標準和名ミナベイラはキスジイラの新参異名. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 51: 25-35. Doi: 10.34583/ichthy.51.0_25 (19 Jan. 2025).
- Bogorodsky, S. V., N. Muto, H. Hata, H. Motomura and T. J. Alpermann. 2025 (Jan.). Review of the mackerel genus *Rastrelliger* (Teleostei: Scombridae) with redescription of *R. chrysozonus* (Rüppell, 1836) and *R. kanagurta* (Cuvier, 1816). Diversity, 17: 72 (38 pp.), doi: 10.3390/d17010072 (20 Jan. 2025).
- Hata, E. and H. Motomura. 2025 (Jan.). Expanded distribution of the Hyuga Fanray *Platyrrhina hyugaensis* Iwatsuki, Miyamoto & Nakaya, 2011 (Platyrrhinidae) off Shanghai, China. Biogeography, 27: 5-8. Doi: 10.11358/biogeography.27.5 (31 Jan. 2025).
- 本村浩之・佐藤智水. 2025 (Feb.). 種子島と馬毛島から得られた初記録の魚類 24 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 52: 1-8. Doi: 10.34583/ichthy.52.0_1 (1 Feb. 2025).
- Sato, M. C. and H. Motomura. 2025 (Feb.). *Tomiyamichthys hyacinthinus*, a new shrimp goby (Teleostei: Gobiidae) from southern Japan. Zootaxa, 5588 (1): 174-184. Doi: 10.11646/zootaxa.5588.1.8 (13 Feb. 2025)
- 出羽優風・本村浩之. 2025 (Feb.). 鹿児島県本土と宇治群島初記録のゴマフヘビギンボ, および本種の標準和名に関する再検討. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 52: 46-53. Doi: 10.34583/ichthy.52.0_46 (16 Feb. 2025).
- Cabebe-Barnuevo, R. and H. Motomura. 2025 (Mar.). *Sebastapistes monospina*, a new species of scorpionfish (Teleostei: Scorpaenidae) from the South Pacific Ocean. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-025-01020-3 (5 Mar. 2025)
- Cabebe-Barnuevo, R. and H. Motomura. 2025 (Mar.). Northern distribution limit of *Parascorpaena poseidon* Chou & Liao, 2022 (Scorpaeniformes: Scorpaenidae) extended to mainland Kagoshima, Japan, with notes on morphological variation. Biogeography, 27: 25-32. Doi: 10.11358/biogeography.27.25 (14 Mar. 2025).
- 吉田卓史・伊東正英・山田守彦・本村浩之. 2025 (Mar.). 薩摩半島西岸と南岸から得られた初記録の魚類 62 種. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 53: 23-39. Doi: 10.34583/ichthy.53.0_23 (14 Mar. 2025).
- Cabebe-Barnuevo, R., D. F. Penuela, E. S. Delloro Jr., R. P. Babaran, H. Motomura and M. C. D. Malay. 2025 (Mar.). Cartilaginous fish diversity in the Western Visayas, Philippines, including two putative unidentified species and the first record of *Carcharhinus plumbeus* (Elasmobranchii: Carcharhiniformes: Carcharhinidae). Acta Ichthyologica et Piscatoria, 55: 51-75. Doi: 10.3897/aiep.55.139721 (20 Mar. 2025).
- 松村優花・本村浩之. 2025 (Mar.). 九州沿岸と宇治群島初記録のソウシカエルアンコウ (カエルアンコウ科). Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 53: 56-60. Doi: 10.34583/ichthy.53.0_56 (21 Mar. 2025).
- Matsunuma, M., S. Kanai, Y. G. Seah, F. Tashiro and H. Motomura. 2025 (Mar.). Resurrection of the five-ocellated left-eye flounder *Pseudorhombus ocellifer* Regan 1905 (Paralichthyidae), with redescription of *Pseudorhombus pentophthalmus* Günther 1862 and *Pseudorhombus oculocirris* Amaoka 1969. Ichthyological Research, doi: 10.1007/s10228-025-01019-w (43 pp.; 29 Mar. 2025)
- 是枝伶旺・赤池貴大・金井聖弥・本村浩之. 2025 (Mar.). 西表島の潮間帯に堆積した死サンゴ片の間隙中から得られた魚類 5 種 (条鰭綱: 新骨下綱). 沖縄生物学会誌, 63: 11-22 (31 Mar. 2025).
- Syahida Kasim, N., S. T. Sheikh Abdul Kadir, Y. G. Seah, M. Matsunuma, H. Motomura, T. N. A. Mat Jaafar and S. A. Mohd Nor. 2025 (Mar.). First record of *Upeneus heterospinus* Uiblein & Pavlov, 2019, Varied-spine Goatfish (Syngnathiformes, Mullidae) from Terengganu, Malaysia, in the southern part of South China Sea. Sains Malaysiana, 54 (3): 621-627. Doi: 10.17576/jsm-2025-5403-01 (31 Mar. 2025).
- 2) 研究論文 (査読なし)
- 是枝伶旺・日比野友亮・金井聖弥・久木田直斗・前田知範・本村浩之. 2024 (May). 2023 年に行われた伝統行事「小村新田のハンギリ出し」の当日に得られた魚類 11 種. Nature of Kagoshima, 51: 1-9 (4 May 2024).

- 是枝伶旺・本村浩之. 2024 (May). 天草諸島長島から得られたダイダイイソミミズハゼ. *Nature of Kagoshima*, 51: 29-31 (21 May 2024).
- 藤田晴大・中島田正希・本村浩之. 2024 (June). 奄美群島加計呂麻島から得られたユウモドロベラの写真に基づく北限記録. *Nature of Kagoshima*, 51: 51-53 (24 June 2024).
- 大井真人・糸野楓一・本村浩之. 2024 (Dec.). 薩摩半島沿岸から得られた鹿児島県本土初記録のカスリイシモチ. *Nature of Kagoshima*, 51: 189-192 (7 Dec. 2024).
- Koreeda, R. and H. Motomura. 2025 (Feb.). An annotated checklist of marine and freshwater fishes of the Koshiki Islands and adjacent waters, Kagoshima, southern Japan, with 353 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 21: 1-119 (28 Feb. 2025).
- 3) 書籍
- 本村浩之 (監). 2024 (Apr.). ひとりでよめる ずかん「さかな」. 株式会社 Gakken, 東京. 96 pp. (15 Apr. 2024)
- 樋之口蓉子・田島奏一朗・是枝伶旺・本村浩之 (編). 2024 (Apr.). 錦江湾奥 干潟の生き物図鑑. 改訂版. 特定非営利活動法人くすの木自然館, 始良. 112 pp. (27 Apr. 2024)
- 本村浩之. 2024 (May). 自然編 第5章 沖永良部島の魚類. Pp. 77-91. 和泊町教育委員会(編)和泊町の歩み. 株式会社トライ社, 鹿児島.
- 本村浩之 (監). 2024 (July). ゆるゆる怪魚図鑑. 株式会社 Gakken, 東京. 176 pp. (30 July 2024)
- 岡本 誠・本村浩之 (監). 2024 (Dec.). 日本の深海魚図鑑. 株式会社 山と溪谷社, 東京. 184 pp. (4 Dec. 2024)
- 4) その他の出版物
- 本村浩之. 2024 (June). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 35 ミツマタネツタイフサカサゴ. さくらじまの海, 28 (1): 8.
- 本村浩之. 2024 (Sept.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 36 マジナイクロハギ. さくらじまの海, 28 (2): 8.
- 中江雅典・昆 健志・千葉 悟・本村浩之. 2024 (Nov.). 2023 年度日本魚類学会年会シンポジウム「名古屋議定書の基礎と近年の動向を魚類学研究の視点で考える」開催報告. *魚類学雑誌*, 71 (2): 267-269.
- 本村浩之. 2024 (Dec.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 37 アカネコバンハゼ. さくらじまの海, 28 (3): 8.
- 本村浩之. 2025 (Jan.). 鹿児島の外来魚 50. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, 51: 1-16 (8 Jan. 2025).
- 本村浩之. 2025 (Mar.). 2020 年創刊の査読付きオンラインジャーナル「Ichthy, Natural History of Fishes of Japan」の紹介. *魚類自然史研究会会報ボテジャコ*, 29: 33-34 (15 Mar. 2025).
- 本村浩之. 2024 (Mar.). シリーズ鹿児島 未知の魚を発見! No. 37 アカネコバンハゼ. さくらじまの海, 28 (4): 8.
- 本村浩之. 2025 (Mar.). ホホジロザメの液浸標本を搬入. 鹿児島大学総合研究博物館ニューズレター, 52: 1-3 (25 Mar. 2025).
- 5) 学会・シンポジウム等発表
- Yuki, D., H. Endo and H. Motomura. 2024 (28 May). Taxonomic review of "*Corythoichthys flavofasciatus*" (Syngnathiformes: Syngnathidae). The 7th Asian Society of Ichthyologists International Conference 2024, Universiti Sains Malaysia, Penang. Oral
- Dewa, Y. and H. Motomura. 2024 (28 May). Species diversity of the triplefin genus *Enneapterygius* (Perciformes: Tripterygiidae) in Japan. The 7th Asian Society of Ichthyologists International Conference 2024, Universiti Sains Malaysia, Penang. Oral
- Cabebe, R., K. Mochizuki and H. Motomura. 2024 (29 May). Systematic classification and molecular phylogeny of the genus *Parascorpaena* (Bleeker 1876) (Teleostei: Scorpaenidae). The 7th Asian Society of Ichthyologists International Conference 2024, Universiti Sains Malaysia, Penang. Oral
- Cabebe, R. and H. Motomura. 2024 (4 June). Systematic and phylogenetic insights into the Indo-Pacific genus *Parascorpaena* (Scorpaenidae). Season for Sharing 44 Seminar, Research Center for Biosystematics and Evolution, Jakarta. Oral
- 松本達也・本村浩之. 2024 (15 June). フサカサゴ科ヒオドシ属 3 種の分類学的再検討. 日本動物分類学会第 59 回大会, 鳥取県立博物館, 鳥取. Poster
- Cabebe, R., K. Mochizuki and H. Motomura. 2024 (10-14 July). Morpho-molecular distinction of the Indo-Pacific scorpionfish genus *Parascorpaena* Bleeker 1876 (Scorpaenidae: Scorpaenini). Joint Meeting of Ichthyologists and Herpetologists. The David L. Lawrence Convention Center, Pittsburgh. Oral on 11 July
- Dewa, Y., N. Muto and H. Motomura. 2024 (10-14 July). Specimens previously identified as *Helcogramma fuscipectoris* (Tripterygiidae) include two distinct species, based on morphological and molecular analyses. Joint Meeting of Ichthyologists and Herpetologists. The David L. Lawrence Convention Center, Pittsburgh. Oral on 12 July
- 本村浩之. 2024 (13 July). 沖永良部島の魚類の多様性とその研究. 和泊中学校・城ヶ丘中学校合同授業 9:30 ~ 11:20 (和泊町令和 6 年度重点新規事業 郷土学習講話事業). 和泊中学校あかね文化ホール, 和泊町.
- 本村浩之. 2024 (13 July). 沖永良部島の魚類の多様性. 令和 6 年度沖永良部地区 (和泊町・知名町) 管理職等研修会 16:30 ~ 17:30. 和泊町役場, 和泊町.
- 本村浩之. 2024 (28 July). 錦江湾の魚たち. 第 12 回寺山文化事業勉強会. 吉野町東菖蒲谷あいご会. 鹿児島市立少年自然の家, 鹿児島市.
- 本村浩之. 2024 (1 Sept.). 沖永良部島の魚類多様性, 現状と課題. エラブ研究の現在地. 自然部会, エラブの豊かさ, 再認識. 「和泊町の歩み」刊行報告会, 和泊町/和泊町教育委員会. 和泊中学校あかね文化ホール, 和泊町.
- 古橋龍星・本村浩之. 2024 (7 Sept.). *Synodus variegatus* 類似種群 (エソ科アカエソ属) の分類学的再検討. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Oral
- Cabebe, R. A. and H. Motomura. 2024 (7 Sept.). Preliminary taxonomic review of the *Parascorpaena mcadamsi* complex from the Pacific Ocean. The 58th Annual Meeting of Ichthyological Society of

Japan, Fukuoka Institute of Technology, Hakata. Oral

橋本慎太郎・本村浩之. 2024 (7 Sept.). 琉球列島から得られた日本未記録のキントキダイ属魚類 *Priacanthus alalaua* ならびに日本産同属魚類の標徴の再検討. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Oral

吉田卓史・本村浩之. 2024 (7 Sept.). インド・西太平洋に分布するイトウオニヒラアジの遺伝的・形態的に異なる 2 型. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Oral

金井聖弥・本村浩之. 2024 (7 Sept.). ニシキギンボ科ヒモギンボの分類学的再検討. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Oral

出羽優風・本村浩之. 2024 (7 Sept.). セグロヘビギンボ類似種群の分類学的研究. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Oral

是枝伶旺・前田 健・本村浩之. 2024 (7 Sept.). 琉球列島から得られたダイダイイソミズハゼに近似するミミズハゼ属の 1 未記載種. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Oral

松村優花・本村浩之. 2024 (7-8 Sept.). ハダカイワシ科イワハダカの形態学的・遺伝学的再検討. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Poster

畑瑛之郎・本村浩之. 2024 (7-8 Sept.). 西オーストラリア・ロットネスト島から得られたキンメダシ属魚類の 1 未記載種. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Poster

池袋日香莉・Seah Ying Giat・Mat Jaafar Tun Nurul Aimi・松沼瑞樹・本村浩之. 2024 (7-8 Sept.). 南日本と南シナ海におけるクモゴチの遺伝的・形態的に異なる 2 型. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Poster

佐藤智水・本村浩之. 2024 (7-8 Sept.). 大隅諸島竹島から得られた日本未記録のコバンハゼ属魚類 *Gobiodon multilineatus*. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Poster

栗山顕太・金井聖弥・松沼瑞樹・本村浩之. 2024 (7-8 Sept.). 日本とマレーシアから得られたメガレイの形態的・遺伝的に異なる 2 型. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Poster

三宅春花名・Muhammad Nurfaiz Hibatullah・Kiki Nur Azam Kholil・Sahat Ratmuangkhwang・Andi Iqbal Burhanuddin・横山悠理・本村浩之・武藤望生・Wahyu Endra Kusuma・熊澤慶伯. 2024 (7-8 Sept.). インドネシア島嶼部西域を中心としたイトヒキキントキ（キントキダイ科）の系統地理学的研究. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Poster

園山貴之・古橋龍星・本村浩之. 2024 (7-8 Sept.). アマミホシゾラフグと *Torquigener parcuspinus* の形態比較. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Poster

檜垣健介・Seah Ying Giat・Sheikh Abdul Kadir Siti Tafzilmeriam・Mat Jaafar Tun Nurul Aimi・木村清志・中江雅典・松沼瑞樹・日比野友亮・小林大純・中村潤平・松本達也・Cabebe-Barnuevo Roxanne・古橋龍星・是枝伶旺・出羽優風・本村浩之. 2024 (7-8 Sept.). マレー半島東岸クアンタンの魚類多様性. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Poster

有馬雄太・松本達也・古橋龍星・是枝伶旺・望月健太郎・石原祥太郎・橋本慎太郎・樋口聡文・佐藤智水・本村浩之. 2024 (7-8 Sept.). 鹿児島県トカラ列島の小宝島・宝島の魚類相. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Poster

中村潤平・金井聖弥・本村浩之. 2024 (7-8 Sept.). 日本産ハタ科ユカタハタ属魚類の分布状況と色彩による識別形質の検討. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Poster

幸大二郎・本村浩之. 2024 (8 Sept.). アマクサヨウジ属魚類の分類学的研究. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Oral

武藤望生・稲垣志峰・勝見健太・藤原弘貴・畑 晴陵・佐久間啓・三澤 遼・永野 惇・熊澤慶伯・本村浩之・白井厚太郎. 2024 (8 Sept.). 西太平洋産沿岸魚における交雑種分化の可能性ならびに生殖隔離機構. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Oral

本村浩之. 2024 (8 Sept.). 日本に魚は何種いるのか? ~日本産魚類全種目録の作成とデジタルデータの共有. 2024 年度日本魚類学会年会. 福岡工業大学, 博多. Oral

Hibatullah, M. N., K. N. A. Kholil, N. Muto, H. Motomura, A. I. Burhanuddin, S. Ratmuangkhwang, Y. Yokoyama, W. E. Kusuma and Y. Kumazawa. 2024 (12-13 Dec.). Phylogenetic studies on coastal fishes from the genus *Eleutheronema* (Pisces: Polynemidae) by molecular and morphological approaches. The 2024 Nagoya City University Contact Points Symposium. Nagoya City University, Nagoya. Oral

本村浩之. 2025 (8 Mar.). 鹿児島大学総合研究博物館の魚類コレクションとオンラインジャーナル「Ichthy, Natural History of Fishes of Japan」の紹介. 第 8 回沖縄お魚ゼミ. 琉球大学理学部, 西原町.

栗山顕太・本村浩之. 2025 (8 Mar.). 奄美大島近海から得られた日本初記録のトラギス属魚類 *Parapercis moki*. 第 8 回沖縄お魚ゼミ. 琉球大学理学部, 西原町.

勝見健太・サハト ラートム アンクワン・アンディ バハルディン イクバル・ワーユ エンドラ クスマ・本村浩之・ムハマド ナーフアイク ヒバチュラ・キキ スル アザム コリル・熊澤慶伯・朝日田卓・武藤望生. 2025 (26-29 Mar.). 東南アジア沿岸域におけるオニアジ *Megalaspis cordyla* の遺伝的集団構造. 日本水産学会春季大会. 北里大学相模原キャンパス, 相模原. Oral

(3) 外部資金

日本学術振興会 科研費基盤研究 (B)「渡瀬線に代わる海洋生物における新たな生物地理境界線「大隅線」の検証」(代表)

日本学術振興会 科研費基盤研究 (B)「島嶼海岸生物の地理的分布に分散ネットワークが果たす役割: 温暖化に伴う北上は容易か」(分担)

(4) 社会貢献・学外活動

インド・太平洋魚類国際会議 運営委員

マレーシア・トレンガヌ大学 教授/准教授昇進外部人事評価委員

オーストラリア博物館 客員研究員

Philippine Journal of Systematic Biology 誌 編集顧問

Taxonomy 誌 編集顧問

国際自然保護連合 種の保存委員

日本魚類学会 標準和名検討委員会 委員

日本魚類学会 ABS 対策チーム 委員
日本魚類学会 代議員
日本動物分類学会 Species Diversity 誌 編集顧問
日本生物地理学会 Biogeography 誌 編集委員長
日本分類学会連合 標準和名問題検討ワーキンググループ 委員
日本博物科学会 理事
かごしま水族館 評議員
鹿児島県自然環境保全協会 幹事
桜島・錦江湾ジオパーク推進協議会 委員
出水ツルの越冬地生物多様性協議会 副会長

(5) 学内委員等

総合研究博物館 館長
総合研究博物館 Ichthy, Natural History of Fishes of Japan 編集委員長
ABS 推進室 委員
SDGs 推進本部会議 委員
企画・評価委員会 委員
国際島嶼教育研究センター 兼務教員
大学院農林水産学研究科 入試委員会 委員
大学院連合農学研究科 入試委員会 委員

(6) 報道関係

ギョギョっと！サカナスター. クエ. NHK E テレ, 2024 年 4 月 17 日, 16:35-17:05 (監修)
種子島のクマドリカエルアンコウ. 消しゴム. 南日本新聞, 2024 年 4 月 23 日
ふるさとなき外来魚 第 4 回 見慣れない巨大魚が釣り人に話題 人工交雑クエタマ、影響数十年も？ 朝日新聞オンライン版, 2024 年 4 月 27 日
上関の魚図鑑作りスタート、町民たちが全て記録 山口県. 中国新聞オンライン版, 2024 年 5 月 22 日
上関の魚 全て図鑑に「住民の心一つに」プロジェクト発足. 中国新聞, 2024 年 5 月 23 日
山口県上関町 奇跡の海で魚図鑑づくり. yab 山口ニュース. 山口朝日放送, 2024 年 5 月 23 日
ふるさとなき外来魚 第 4 回 タマクエ 人工交雑魚が釣れる海 鹿児島 国内に同じ種がいる魚も養殖・放流に懸念. 朝日新聞夕刊, 2024 年 6 月 27 日
奄美で国内初確認の魚 和名「マジナイクロハギ」鹿大チーム. 南日本新聞, 2024 年 7 月 5 日
大和村で国内初確認の魚類 「マジナイクロハギ」と命名 鹿大博物館・連合農学研究チーム. 南海日日新聞, 2024 年 7 月 5 日
沖永良部島の豊かな自然再認識 和泊町、専門家招き郷土学習 初回は魚類について学ぶ. 南海日日新聞, 2024 年 7 月 17 日
ギョギョっと！サカナスター. セトダイ. NHK E テレ, 2024 年 7 月 19 日, 19:25-19:55 (監修)
シューイチ. 日本テレビ, 2024 年 7 月 21 日
消しゴム アカネコバンハゼ. 南日本新聞, 2024 年 7 月 28 日
ヤッコエイ新種と判明 鹿大などチーム発表 日本のみ生息確認. 南日本新聞, 2024 年 8 月 7 日
リア突 WEST. 世界の人だかりクイズ in オーストラリア DAY2. 朝日放送, 2024 年 8 月 18 日, 13:25-13:55
ギョギョっと！サカナスター. ヒメジ. NHK E テレ, 2024 年 8 月 23 日, 19:25-19:55 (監修)
かごさび. NHK, 2024 年 9 月 13 日, 19:30-19:55
ギョギョっと！サカナスター. コノシロ. NHK E テレ, 2024 年 11 月 1 日, 19:25-19:55 (監修)
ギョギョっと！サカナスター. 絶品魚介 南国編. NHK E テレ, 2024 年 12 月 6 日, 19:25-19:55 (監修)
日本の深海魚図鑑 写真厳選、興味深い解説. 日本水産経済新聞, 2024 年 12 月 12 日
ギョギョっと！サカナスター. エビスダイ. NHK E テレ, 2025 年 1 月 10 日, 19:25-19:55 (監修)
在来種ドジョウも所変われば駆除対象、生態系を脅かす「第 3 の外来種、とは？」 専門家「安易な放流やめて」 鹿児島大で企画展. 南日本新聞, 2025 年 1 月 18 日
日本で最も長い名前持つ深海魚も 最新 423 種の深海魚図鑑が完成. 朝日新聞, 2025 年 1 月 22 日
世界でただ 1 匹、日本最長の名前…最新の深海魚図鑑を研究者が執筆. 朝日新聞デジタル, 2025 年 1 月 22 日
唐津の海に異変. ニュースただいま佐賀. NHK, 2025 年 2 月 18 日, 18:10-18:59

大西 佳子 [助教]

田金 秀一郎 [准教授]

(1) 教育活動

1) 専門教育
理学部「地域自然環境実習」
理学部「多様性生物学基礎」
理工学研究科「植物分類学特論」
理工学研究科「論文購読」
理工学研究科「生物学特別講義 I、II」
理工学研究科「修士論文特別研究 I、II」

2) その他

共通教育科目「博物館資料論」

共通教育科目「博物館実習事前事後指導」

共通教育科目「屋久島の環境文化 I—植生—」

(2) 研究活動

1) 研究論文 (査読付)

- Dang H.C., Nguyen T.K., Nguyen H.H., Dang N.H., Truong H.T., Tagane S. 2025. *Syzygium triflorum* (Myrtaceae), a new species from Vietnam. *PhytoKeys* 255: 75–83. <https://doi.org/10.3897/phytokeys.255.143043>
- Pham Q.T., Tagane S., Souladeth P., Yamamoto T., Phonepaseuth P., Vongthavone T., Kongxaisavath D., Truong B.V., Dang V.S. 2025. Two new records of *Lasianthus* (Rubiaceae) for the Flora of Laos. *Rheedea* 35(1): 39–45. <https://dx.doi.org/10.22244/rheedea.2025.35.01.08>
- Nguyen Q.B., Truong B.V., Tagane S., Le T.A., Pham V.N., Quach V.T.E., Bui V.H., Nguyen T.V. 2025. Taxonomic notes of the genus *Eumachia* DC. in the flora of Vietnam and description of a new species. *Taiwania* 70(2): 262–274. <https://doi.org/10.6165/tai.2025.70.262>
- Dang V.S., Le T.A., Hoang T.S., Le V.S., Ha V.B., Pham Q.T., Phetlasy S., Tagane S., Naiki A. 2025. Two new species and one new addition of *Lasianthus* (Rubiaceae) for the flora of Vietnam. *Phytotaxa* 694: 57–67. <https://doi.org/10.11646/phytotaxa.694.1.4>
- Vongthavone T., Tagane S., Souladeth P., Souvannakhommane K., Phonepaseuth P., Xayyasith S. 2025. Two new species and five new distribution records of Pteridophytes from Phou Pha Marn Limestone Karst in Central Laos. *Kew Bulletin* 80:185–196. <https://doi.org/10.1007/s12225-024-10213-4>
- Kongxaisavath D., Tagane S., Souvannakhommane K., Phegmala K., Sengthong A., Dang V.S., Nguyen Q.B., Yamamoto T., Tanaka N., Takahashi T.K., Souladeth P. 2025. *Orophea phouphamarnensis* (Annonaceae), a new species from limestone karst in central Laos. *Phytotaxa* 687: 15–20. <https://doi.org/10.11646/phytotaxa.687.1.3>
- Yamamoto T., Dang V.S., Souladeth P., Tagane S. 2025. *Nymphanthus adenophorus*, a new species of Phyllanthaceae from Vietnam. *Phytotaxa* 683: 18–24. <https://doi.org/10.11646/phytotaxa.683.1.3>
- Tagane S., Souladeth P., Phonepaseuth P., Vongthavone T., Kongxaisavath D., Yamamoto T., Murakami N. 2025. *Tetrastigma fruticosum*, a new species of Vitaceae from limestone karst in central Laos. *Phytotaxa* 683: 9–17. <https://doi.org/10.11646/phytotaxa.683.1.2>
- Tagane S., Dang V.S., Truong B.V., Nguyen Q.B., Pham Q.T., Nguyen T.V., Yamamoto T., Kongxaisavath D., Souladeth P. 2025. *Wrightia nuichuaensis* (Apocynaceae), a new species from southern Vietnam. *Phytotaxa* 683: 87–90. <https://doi.org/10.11646/phytotaxa.683.1.10>
- Tagane S., Dang V.S., Truong B.V., Nguyen Q.B., Pham Q.T., Nguyen T.V., Yamamoto T., Kongxaisavath D., Yamazaki K., Nuraliev M.S., Fomichev C.I., Souladeth P. 2025. *Memecylon longipedunculatum* (Melastomataceae), a new species from coastal areas of South Central Vietnam. *Phytotaxa* 683: 1–8. <https://doi.org/10.11646/phytotaxa.683.1.1>
- Yano O., Hiramoto I., Tomiyama C., Tagane S. 2025. A new locality of *Carex tsushimensis* (Cyperaceae) from the Naka-Koshiki Island of Kagoshima Prefecture, Japan. *The Journal of Japanese Cyperology* 26: 51–53.
- Tagane S., Yooprasert S., Chamchumroon V., Suphunte N., Fuse S., Tamura M.N. 2024. An additional record for Rhamnaceae in Thailand. *Thai Forest Bulletin, Botany* 52(2): 89–91. <https://doi.org/10.20531/tfb.2024.52.2.12>
- Shimizu-kaya U., Itioka T., Tagane S., Tipot E., Gumal M.T. 2024. A Guide to *Macaranga* (Euphorbiaceae) of Lambir Hills National Park, Sarawak, Malaysia. *Contributions from the Biological Laboratory Kyoto University* 32: 50–81. <http://hdl.handle.net/2433/289910>
- Lima L.V., Almeida T.E., Kessler M., Rouhan G., Tagane S., de Oliveira Dittrich V.A., Salino A. 2024. The classification of the fern family Gleicheniaceae, with the description of a new genus, segregated from *Sticherus*. *Botanical Journal of the Linnean Society* 206(4): 275–295. <https://doi.org/10.1093/botlinnean/boae027>
- Noyori W., Isagi Y., Nakamura N., Tagane S., Ceils G., Kitajima K. 2024. Phylogeography of apomictic and outcrossing individuals in invasive and native populations of *Ardisia crenata* (Primulaceae). *Plant Species Biology* 2024: 1–10. <https://doi.org/10.1111/1442-1984.12482>
- Phonepaseuth P., Vuong T.B., Souladeth P., Yamamoto T., Vongthavone T., Kongxaisavath D., Trong P.Q., Tagane S. 2024. Two new records of fairy lanterns, *Thismia* (Thismiaceae) for the Flora of Laos. *Thai Forest Bulletin, Botany* 52(2): 56–61. <https://doi.org/10.20531/tfb.2024.52.2.0>
- Lee C.K., Fuse S., Poopath M., Pooma R., Tagane S., Yang Y.P., Tobe H., Tamura M.N. 2024. Biosystematic Studies on Commelinaceae (Commelinales) II. Phylogeny and Floral Evolution in *Murdannia*. *Acta Phytotaxonomica et Geobotanica* 75(2): 51–69. <https://doi.org/10.18942/apg.202406>
- Nagahama A., Tagane S., Souladeth P., Tanaka N., Yahara T. 2024. Three new records of Annonaceae for the flora of Laos. *Thai Forest Bulletin, Botany* 52: 44–48. <https://doi.org/10.20531/tfb.2024.52.1.05>
- Quang B.H., Tagane S., Nagahama A., Fujiwara T., Yoneoka K., Binh T.D., Oguri E. 2024. *Meiogyne konkakinbensis* (Annonaceae), a new species from the central highlands of Vietnam. *Phytotaxa* 652: 78–82. <https://doi.org/10.11646/phytotaxa.652.1.7>
- Fujimoto Y., Tagane S., Rabarison H., Andriamahasetra R.V., Komada N., Kitajima K. 2024. *Impatiens alboarenicola*, a new species of Balsaminaceae from north-western Madagascar. *Phytotaxa* 650(3): 206–212. <https://doi.org/10.11646/phytotaxa.650.3.2>
- Yamamoto T., Souladeth P., Phonepaseuth P., Kongxaisavath D., Vongthavone T., Vuong T.B., Trong P.Q., Souvannakhommane K., Tagane S. 2024. *Nymphanthus namkadingensis*, a new species of Phyllanthaceae from Laos. *Phytotaxa* 650(3): 199–205. <https://doi.org/10.11646/phytotaxa.650.3.1>
- Le T. A., Tagane S. 2024. *Glycomis quangtriensis* (Rutaceae), a new species from Quang Tri province,

central Vietnam. Phytotaxa 650(1): 116-120. <https://doi.org/10.11646/phytotaxa.650.1.10>

2) 研究論文 (査読無)

鈴木英治・田金秀一郎. 2025. 鹿児島県の維管束植物分布図集補遺 IV. 鹿児島植物研究会誌 14: 24-27.
竹口 輝・田金秀一郎・渡部俊太郎. 与論島の琉球石灰岩と砂浜の異なる地形における植物多様性. 鹿児島県の維管束植物分布図集補遺 IV. 鹿児島植物研究会誌 14: 18-20.

3) 書籍等

田金秀一郎. 2025. 奄美群島の植物多様性の解明に向けて. 日本学術会議九州・沖縄地区ニュース 123: 5.
黒沢高秀・田金秀一郎・末次健司. 2024. DNA 用サンプル採取には届出が必要か. 日本植物分類学会ニュースレター 95: 16-17.

4) 学会・シンポジウム等発表

駒田夏生・市岡孝朗・田金秀一郎・清水加耶・Meleng P.・Pungga R.S.・Gumal M.T. ボルネオ熱帯雨林の樹上性植物は、林冠部ハビタットにどれほど依存しているのか? 日本生態学会第 72 回全国大会. 2025 年 3 月 15-18 日. 札幌. Oral.

竹口輝・渡部俊太郎・田金秀一郎・山本武能. 微地形と標高勾配が植物多様性に与える影響—鹿児島県の岳における植生調査より—. 日本生態学会第 72 回全国大会. 2025 年 3 月 15-18 日. 札幌. Poster.

上村真寛・田金秀一郎・鈴木英治・渡部俊太郎. 日本の温帯から亜熱帯域に自生するハナミョウガ属 2 種の分布と繁殖特性. 日本生態学会第 72 回全国大会. 2025 年 3 月 15-18 日. 札幌. Poster.

吉田涼香・瀬戸口浩彰・山本将也・長澤耕樹・増田和俊・永野惇・田金秀一郎・井上康彦・倉田薫子. 多様な性表現を示す日本産シライトソウ属の系統進化. 日本植物分類学会第 24 大会. 2025 年 3 月 8-10 日. 高知. Poster.

矢原徹一・廣田峻・佐藤広行・布施健吾・田金秀一郎・南谷忠志ほか 33 名. : MIG-seq 解析により日本の被子植物 36 属において 134 種の未記載種が明らかにされた. 日本植物分類学会第 24 大会. 2025 年 3 月 8-10 日. 高知. Poster.

高橋弥生・藤原正人・田金秀一郎・尾関雅章・岩崎貴也. 葉緑体ゲノムおよび核ゲノムワイド SNP 解析によるクロモジ類の実態と系統進化の解明. 日本植物分類学会第 24 大会. 2025 年 3 月 8-10 日. 高知. Oral.

田金秀一郎. まだまだ見つかる鹿児島県の植物たち. 鹿児島植物研究会講演会. 鹿児島大学. 2025 年 1 月 25 日. Oral.

田金秀一郎・鈴木英治. 鹿児島県レッドデータブックの改訂に向けて. 鹿児島植物研究会講演会. 鹿児島大学. 2025 年 1 月 25 日. Oral.

田金秀一郎. 鹿児島県レッドデータブックの改訂に向けた奄美群島の植物調査. モニタリングワークショップ 外来植物モニタリング調査報告会. 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室. 2025 年 2 月 16 日 (招待講演). Oral.

田金秀一郎. 東南アジアの植物の多様性解明に向けて. 第 40 回国際生物学賞シンポジウム. 2024 年 12 月 21 日. 京都大学. (招待講演). Oral.

田金秀一郎. 奄美群島の植物多様性の解明に向けて. 日本学術会議九州・沖縄地区会議 学術講演会「世界遺産・奄美群島固有の生態系と文化的多様性—次代へつなぐアマミの宝—». 2024 年 10 月 9 日. 鹿児島大学. 鹿児島 (招待講演). Oral.

Souladeth P., Tagane S. Flora of Laos: diversity and conservation efforts. Southeast Asia Biodiversity workshop. 6-7 November 2024, Xishuangbanna Tropical Botanical Garden, China. Oral.

穂高響・榮村奈緒子・蜂須賀莉子・鶴川 信・川西基博・田金秀一郎・渡部俊太郎・牧貴大・鈴木英治・畑邦彦・藤田志歩. カメラトラップ法によるアマミノクロウサギの日周活動. 日本哺乳類学会 2024 年度大会. 9 月 2024 年 9 月 6-9 日. 兵庫県立大学. 神戸. Poster.

Noyori W., Fujimoto Y., Sato H., Tagane S., Harison R., Kitajima K. Woody plant diversity in a 15-ha forest dynamics monitoring plot in Ankarafantsika National Park, NW Madagascar. IBC2024 (20th International Botanical Congress). 21-27 July 2024. Madrid, Spain. Poster.

Ohi-Toma T., Nagamasu H., Tagane S., Yahara T., Naiki A. Phylogenetic relationship of *Cleyera* and related genera of Pentaphylacaceae. IBC2024 (20th International Botanical Congress). 21-27 July, 2024, Madrid, Spain. Poster.

Naiki A., Yamamoto T., Yonekura K., Shitara T., Toyama H., Tagane S., Abe A., Kajita Y., Sashimura N., Amano M., Furumoto R. First comprehensive floristic survey using a belt transect method on Iriomote Island, Okinawa, southern Japan. IBC2024 (20th International Botanical Congress). 21-27 July, 2024, Madrid, Spain. Poster.

Komada N., Tagane S., Shimizu-kaya U., Meleng P., Pungga R.S., Gumal M.T. Habitats of vascular epiphytes in a lowland forest of Borneo. The Canopy Biology Workshop, 26 July 2024, Kyoto University, Kyoto. Oral.

Nagahama A., Tagane S., Nguyen N.V., Hoang B.T., Yahara T. Plant diversity and phenological patterns of montane forests in Bidoup-Nui Ba National Park. Bidoup-Nui Ba National Park 20th Anniversary Symposium. 26-27 April 2024. Dalat, Vietnam. Oral.

Komada N., Tagane S., Shimizu-kaya U., Meleng P., Pungga R.S., Gumal M.T. Characteristics of host species and microhabitats of epiphyte assemblages in a Bornean lowland tropical forest. The 71st Annual Meeting of the Ecological Society of Japan, 16-21 March 2024, Yokohama National University, Yokohama. Oral.

(3) 外部資金

環境研究総合推進費 「ゲノム情報と正確な同定にもとづく維管束植物の統合データベース構築と多様性指標・保全優先度の地図化技術の開発 (4-2301)」 (分担)

日本学術振興会 科研費基盤研究 (A) 「マダガスカル固有の進化適応から熱帯樹種の乾燥への適応戦略の本質を理解する」 (分担)

日本学術振興会 科研費基盤研究 (C) 「多回繁殖が生み出す植物種の共存: 予測と検証」 (分担)

日本学術振興会 国際共同研究加速基金 (国際共同研究強化 (B)) 「熱帯の植物多様性の総点検: 生物学的種概念に基づいてタイ産単子葉植物の種を捉え直す」 (分担)

日本学術振興会 二国間交流事業共同研究 「Development of AI-powered image identification system for

images of herbarium specimens based on integrated botanical information between Korea and Japan(日韓統合植物標本種同定システムの構築、スミレ科、シソ科、シダ植物を例にして)」(分担)
長尾自然環境財団「ラオスとベトナムのカルスツ地における植物の多様性評価」(代表)
一般財団法人沖縄美ら島財団 共同研究「西表島植物誌編纂に係る植物標本データベースの作成」
独立行政法人国立科学博物館「自然史系博物館所有の生物多様性情報」に関わるデータ提供

(4) 社会貢献・学外活動

日本植物分類学会 標本問題対応委員会 委員
日本植物分類学会 普及推進委員会委員 委員
日本植物分類学会 ABS 問題対応委員会 委員
日本植物分類学会 英文誌 Acta Phytotaxonomica et Geobotanica 編集委員
鹿児島植物研究会 会誌編集委員
鹿児島自然環境保全協会 Nature of Kagoshima 編集理事
首都大学東京 客員研究員
Thai Forest Bulletin, Botany 編集委員
環境省 希少野生動植物保存推進委員
鹿児島県 希少野生動植物保護対策検討委員
鹿児島県 文化財保護審議会委員
鹿児島県立博物館 協議会委員
かごしま環境未来館 植物標本の作成ワークショップ「木・草・花を標本にしよう」講師(2024年6月15日開催)

(5) 学内委員等

鹿児島大学理工学研究科 兼務教員
鹿児島大学国際島嶼教育研究センター 兼務教員
鹿児島大学国際島嶼教育研究センター 出版部会委員
総合研究博物館 第6回バックヤードツアー「植物標本室」企画・担当
総合研究博物館 第22回自然体験ツアー「下山岳の植物」企画・担当
総合研究博物館 第43回市民交流会「鹿児島植物研究会 講演会」企画・担当
鹿児島大学 第1回「奄美自然体験プログラム」企画(一部)・担当

(6) 主な植物調査

2024年4月13-15日 鹿児島県：甕島
2024年4月28日 鹿児島県：南さつま市・長屋山
2024年5月5-6日 鹿児島県：甕島
2024年5月8日 鹿児島県：出水市
2024年5月23-28日 鹿児島県：与論島(兼学生実習)
2024年6月9日 鹿児島県・宮崎県：霧島山
2024年6月9日 鹿児島県・宮崎県：霧島山
2024年6月21-24日 茨木県：国立科学博物館
2024年6月29日-7月12日 ベトナム：Kien Giang 省と An Giang 省
2024年8月1日 鹿児島県：出水市
2024年9月2-13日 ラオス：Phou Hin Poun National Protected Area
2024年9月17-29日 マレーシア：サラワク・Bako National Park
2024年10月6日 鹿児島県：出水市
2024年10月13日 鹿児島県：日置市
2024年10月30日 鹿児島県：さつま町・出水市
2024年11月21-25日 鹿児島県：沖永良部島
2024年12月4-14日 ベトナム：Phong Nha-Ke Bang National Park
2025年2月17日 鹿児島県：奄美大島
2025年3月2-13日 ラオス：Phou Hin Poun National Protected Area
2025年3月17-25日 ベトナム：Cat Ba National Park

(7) 報道関係

鹿児島県 鹿大研究者と学ぶ 奄美の植物・生き物観察 鹿児島市内・県外の小中学生. 奄美新聞. 2024年8月19日
研究者が「思わずハイタッチ」1株の小さな花は1世紀ぶりの大発見. 朝日新聞デジタル. 2024年4月6日
TBS 世界遺産「屋久島～鈴木亮平が行く! “洋上のアルプス”」2024年4月7日(監修)
TBS 世界遺産「屋久島～鈴木亮平が行く! “洋上のアルプス”」2024年4月14日(監修)

鹿児島大学総合研究博物館 第22回 特別展

鹿児島の 外来魚50

自然豊かで、高い生物多様性を誇る鹿児島県ですが、身近な海や川、湖には多くの外来魚が潜んでいます。外来魚による在来魚を含む生態系への影響と今後の課題を多くの方々に知って頂きたい、本特別展では鹿児島県から記録されている外来魚を紹介するとともに、外来魚50種の液浸標本を展示します。

会場 鹿児島大学中央図書館ギャラリーアトリウム

日時 2025年1月8日[水]～2月7日[金]
10:00～17:00

※休館日/1月13・18・19日（1月28日～2月7日は学内者のみ入場可）

！入場無料！

会場 かごしま環境未来館

日時 2025年2月8日[土]～3月16日[日]
9:30～21:00（日曜日・祝日は18:00まで）

※休館日/月曜日（祝日の場合そのあとの最初の平日）

！入場無料！

関連企画 鹿児島大学総合研究博物館 第42回 市民講座
「鹿児島の外来魚」

■講師：米沢俊彦（鹿児島県環境技術協会）

■会場：鹿児島大学連合農学研究科棟3F大会議室

■日時：2025年1月11日（土）13:00～14:00

入場無料・事前申込み不要



鹿児島大学総合研究博物館

〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-30

Tel: 099-285-8141

URL: <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>

鹿児島大学総合研究博物館 2024年度イベント

第23回自然体験ツアー 『下山岳の植物』

枕崎市と南九州市の境に位置する下山岳（415 m）にて、登山をしながら植物の観察を行います。

開催日
2024. 10/6 (日)
10:00～14:00

場所 南九州市下山岳
案内者 田金秀一郎（鹿大博物館）
参加費 無料



申し込み方法 次の事項をemail、FAX、またはハガキに明記し、下記までお送りください
個人情報はこの企画の目的以外には使用致しません。参加決定者には
後日詳しいプログラムをお送りいたします

①参加希望者全員分の氏名・年齢、②住所、③電話番号、FAXまたはemailアドレス

応募締切 2024年9月30日(月) 16:00必着

定員 7名程度（希望者多数の場合は抽選となり、参加の可否を別途ご連絡いたします）

応募先 鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市都元1-21-30
Tel: 099-285-7259 Fax: 099-285-7267 email: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島大学総合研究博物館 2024年度イベント

第6回バックヤードツアー 『植物標本庫』

植物標本庫はどんなところ？何のために存在するの？普段入ることのできない鹿児島大学総合研究博物館植物標本室にて、「研究資料」としての植物標本の意義や身近な植物の名前の調べ方、博物館での収蔵管理や利用について解説します

2024. 12/1 (日)
10:00～12:00

場所 鹿児島大学総合研究博物館 都元キャンパス
共同利用棟 2階 植物標本室
案内者 田金秀一郎（鹿大博物館）
参加費 無料

当館所蔵の**牧野富太郎**博士が
つくった実物標本もご覧いただけます！



申し込み方法 次の事項をハガキ、またはemailに明記し、下記までお送りください
個人情報はこの企画の目的以外には使用致しません。参加決定者には
後日詳しいプログラムをお送りいたします

①参加希望者全員分の氏名・年齢、②住所、③電話番号、またはemailアドレス

応募締切 2024年11月22日(金) 必着

定員 7名程度（希望者が定員を超えた場合は抽選となります）

応募先 鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市都元1-21-30
Tel: 099-285-8140 email: info@kaum.kagoshima-u.ac.jp

鹿児島植物研究会が2004年から開始した野外の植物観察会。本年度に200回を越えたことを記念して本講演会を企画し、鹿児島県における植物生態学の最前線や多様性解明に向けた取り組みについてご紹介いたします。

鹿児島植物研究会 講演会

日時 2025.1.25 (土) 13:00～15:30

会場 鹿児島大学 大学院連合農学研究科棟3階 会議室（参加無料）

会員外の方も無料で参加できます。
オンライン（Zoom）による同時配信も行います。オンライン参加希望者は、次のURLまたは
右のQRコードからアクセスしてください（Zoomの参加情報はURLのアンケート回答後に表示）
<https://forms.gle/rKdynTYgyf2FFqJ8>

プログラム

- 13:00～13:05：開会・会長挨拶
- 13:05～13:35：まだまだ見つかる、鹿児島県の植物たち（田金秀一郎）
- 13:35～14:00：鹿児島県レッドデータブックの改訂に向けて（田金秀一郎・鈴木英治）
- 14:00～14:15：鹿児島県に自生するハナミョウガ属2種の花生態について（上村真真）
- 14:15～14:30：高嶺演習林の熊岳における植生調査
一微地形と標高勾配の影響についての考察（竹口 輝）
- 14:30～14:45：高嶺山系に分布する3種のホトギス属の受粉前の生殖的隔離（二町侑樹）
- 14:45～15:15：鹿児島県でみられる植物の共存：近縁種の分布に着目した事例紹介（渡部俊太郎）

共催 鹿児島大学総合研究博物館（第43回市民講座）
後援 鹿児島大学国際島嶼教育研究センター

お問い合わせ

鹿児島大学総合研究博物館
〒890-0065 鹿児島市都元1-21-30 TEL 099-285-8141
Email [info\[at\]kaum.kagoshima-u.ac.jp](mailto:info[at]kaum.kagoshima-u.ac.jp) ※[at] は @ に置き換えて下さい



鹿児島大学総合研究博物館

第44回市民講座 福昌寺キリシタン墓地の調査成果と 潜伏キリシタン史

2023年3月に実施した
鹿児島市福昌寺キリシタン墓地の
調査成果を紹介し、潜伏キリシタンの
歴史からその意義を探ります。

2025年2月8日(土) (参加無料)
13:30～15:30

場所 鹿児島大学都元キャンパス内連合農学研究科3F会議室
オンライン同時開催（Microsoft Teams 使用。画面レイアウトは異なりますが使用方法はZoomと同様です）
申し込み：下記URLもしくはQRコードからアクセス
<https://forms.gle/uoEPTD1uZP1tG8>
フォームにアンケートを入力の上、送信すると、その後に、Teamsの参加情報が表示されますので
メモを保存してご参加下さい。

講師 田中裕介（別府大学文学部）
橋本達也（鹿児島大学総合研究博物館）

鹿児島大学総合研究博物館
099-285-8141 <https://www.museum.kagoshima-u.ac.jp/>



鹿児島大学総合研究博物館年報

Annual Report of the Kagoshima University Museum

No. 22

2024

2025. 6. 23

鹿児島大学総合研究博物館 The Kagoshima University Museum
890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 1-21-30 Korimoto, Kagoshima 890-0065, Japan
Printed in Japan